

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第75号 2020年10月

甲南山岳部・甲南山岳会

山行・紀行

シャモニとツェルマットの山旅 2019 年 7 月～8 月 山本恵昭 …… 2

沖縄クルージング (2016.4.2～5.21) 水渡清夫 …… 14

寄 稿

赤松恵美子様からのお便り …… 26

追 悼

追憶 鷺尾顕先輩のこと 越田和男 …… 28

訃報 池田喜久夫氏のこと 井上知三 …… 30

越田和男

廣瀬健三

アメさんの思い出 石原浩二 …… 31

平井吉夫殿 あなたのお陰で山奥のチトラルで本式正餐ディナー

南井英弘 …… 35

追憶 平井吉夫君のこと 越田和男 …… 36

鵜木君の想いで 森本全彦 …… 38

鵜木さんが亡くなられた 水渡清夫 …… 39

会員短信

総会・慰霊祭への出欠はがきから (構成) 井上知三 …… 41

報 告

秋の集会 渋谷一正 …… 49

ホームページから

掲示板ダイジェスト 山行と集いを中心に (構成) 大森雅宏 …… 50

塩崎編集長の海外写真日記 …… 67

編集後記に代えて

寄稿のお願い 塩崎将美 …… 71

－ 山行・紀行 －

シャモニとツェルマットの山旅 2019年7月31日～8月16日

山 本 恵 昭 (昭56理)

若い頃は、ヨーロッパアルプスなんていつでも行けると、全く眼中にありませんでした。でも、初老の衰えを感じる今日この頃、眺めにではなく登りに行くなら今しかないかもしれないと思うようになりました。そして、いつも直前準備の私にしては珍しく出発の2ヶ月ほど前に立案。フランスのシャモニとスイスのツェルマットで、キャンプ生活を基本にハイキング三昧。登攀具も持参して、モンブランをはじめ周辺の山に登ってやろうという欲張りな計画を実行してみました。

・準備

6月に2回、雨の富士山に登って高所順応を行う。2回目の時は、下山中に孫が産まれそうとの連絡が入り、富士山麓から岡山まで高速を飛ばして病院に直行。何とか生まれたての初孫に会うことができた。これで本当のジジイとなる。7月の週末は、六甲山上で車中泊し、早朝のまだ暑くない時間帯にダッシュで下って登り返すトレーニングを繰り返す。

現地情報を調べながら準備を進めていると、モンブランの登山規制のニュースが飛び込んでくる。混雑事故防止のための新しい条例ができて、今年から通常ルートからの登山は小屋予約者のみしか許可されなくなったらしい。ルート上のグーテ小屋などは何か月も前から予約で一杯。ガイドを雇えば別窓口があるようだが、経済的にそんな余裕はない。テントを設営して登るつもりだったので、登山規制がどのルートにどこまで適用されるのか

を確認しようと大使館などに問い合わせるが、詳細はよくわからない。しかたがないので、とりあえず現地に行って臨機応変に山を楽しむということにして、準備を進める。

パリとかに寄らないなら一緒に行かないと言っていた妻も、直前になって急に行きたいと言い出し、結局いつも通りドタバタの準備。全日程キャンプ生活では、私が山にテントを持って上がると妻が宿泊場所に困ることになるので、ホテル検索サイトを使って前半はアパートを借りることにする。

ジュネーブまでの空路には、いろいろな航空会社の様々な経由地の便があるが、到着時刻や値段などから考えて、エミレーツ航空の関空発ドバイ経由便をネットで予約する。

テントやコンロなどのキャンプ用具、トレッキングシューズやストックなどのハイキング用具、ピッケル、バイル、アイゼン、ヘルメット、ハーネス、冬靴といった登攀具類を、部屋の床に並べていくと、何とも焦点の定まらない計画であることを実感する。2人分の荷物を4つのザックに無理やり詰め込みうんざりしていると、大森さんから「関空まで車で送るよ」と連絡をいただき、甘えさせてもらう。

・シャモニ モンブラン敗退、ハイキング三昧

7月31日、エミレーツ航空に搭乗し、関空を深夜に出発。ドバイ経由で、8月1日の昼過ぎにはジュネーブ空港に到着。バスに乗って1時間半ほどでシャモニに着く。

予約したアパートの場所を探し出して、入口へ到着。ここまでは、全て順調であった。しかし、ここで大きな失敗をしていることに気が付く。ホテル検索サイトで予約したアパートの利用方法を、ホテルやB&Bと同じように考えていた。着いたら受付で鍵を受け取って部屋へ入れると思っていたら、受付などない。入口には鍵がかかっていて、セキュリティナンバーを押して入る仕組み。一般の人も住んでいるアパートの一室を貸し出しているということを、その時に初めて理解した。予約票をよく読み直してみると、カギは入口のボックスの中にあり、詳しいことは着いたら電話で指示を受けるように書いてある。私のスマートフォンは海外で電話を使える設定にしていない。住人が入口を開けてくれたので、アパート内に中に入ることができたが、入口横の郵便受けを覗いてみても鍵らしきものはない。

隣のピザ屋で事情を説明すると、店員が携帯電話を貸してくれた。それを使って指定番号に電話をするが、私のなんちゃって英語は電話では通用しない。状況を上手に説明できないし、何度聞き返しても早口で何を言っているのかよく聞き取れない。仕方なく観光案内所の日本語受付まで行って、受付の方に電話をしてもらった。入口のセキュリティナンバー、部屋番号、そして部屋のドアの所に鍵ボックスがあることを聞き出してもらい、やっと概要がつかめた。再びアパートに戻って指定の部屋の前に行くと、確かに鍵ボックスがある。しかし、またまたセキュリティナンバーが必要。またまた廊下にいる家族連れに助けを求めると、電話でセキュリティナンバーを聞き出して鍵箱を開けてくれた。18:30 やっと部屋へ入ることができたときには、疲れてぐったり。今日は、登山情報の収集予定であったが、無駄に潰れてしまった。近くのスーパーマーケットで買出しをして夕食を食べ、

ザックから大量の荷物を部屋の床に吐き出し、ベッドに転がり込む。

2日、この日は情報収集日とする。ガイド協会の山の家に行き、地図を買って登山情報を仕入れる。やはり、モンブランの一般的なグーテルルートは持ち込みテント泊禁止。ガイドツアーだと、いろいろセットで20万円ほど。比較的易しいバリエーションルートの三山縦走ルートは、条例の範囲外であるが、セラックの状態が良くないとのこと。昨日のお礼を兼ねて、観光案内所の日本語受付を再訪する。そこの方からも、今年は異常に気温が高いため、三山縦走ルートはセラック崩壊が激しく、事故が続いているのでやめた方がよいとのアドバイスをもらう。

シャモニは、ヨーロッパ屈指の山岳リゾートであって、なかなかおしゃれな街である。高級そうなブランドショップが並び、石畳みの道を大型犬をつれて散歩している人が多い。街をぶらつきながら、旅の後半に利用するつमりのアロールキャンプ場をのぞいてみる。小高い丘にあり、エギュイ・デュ・ミディへのロープウェイ乗り場やバス停にも近く、便利そうである。クライマーやハイカーのテントからキャンピングカーまで、所狭しと並んで、大賑わい。日本人の若者が一人いたので、声をかけてみる。長期滞在しながら、すでにモンブランを三山縦走ルートから登って来たそうである。途中、氷壁に取り付く手前のクレバスが開いていて怖かったとのこと。下りは懸垂下降をしたそう。

登山情報だけでなく、いろいろ役立つ現地情報を教えてもらう。シャモニ谷のほぼ全てのロープウェイや登山電車が乗り放題になるモンブラン・マルチパス。皆さん、いろいろなロープウェイを積極的に利用してハイキングを楽しんでいるとのこと。我々は、とりあえず7日間中3日有効の券を購入した。シャモニ谷の路線バスや国鉄が無料で利用

できるカルト・ドット。シャモニで宿泊するともらえる
と聞いていたが、実物を見せてもらうまで、アパート
の机に置いてあるカードがそれであることに気が
付かなかった。路線バスには、一般の便とは別に、
1日に4便ほどマウンテンバイク用の便があり普通
の乗客は利用できないそうだ。

入室には手間取ったが、アパート生活はなかなか
快適である。いつでもシャワーを浴びることができるし、洗濯もできる。調理器具も食器も揃っている
ので、スーパーマーケットで好きな食材を購入して料理もできる。ベッドに寝転がってフランス語のテレビを見ていると、いつの間にかウトウトと夢心地。そして、ホテルよりは経済的。

夕食後、ワインを飲みながら、これからの行動を検討する。遥々ここまで来て、聞いた話だけでモンブラン登山を諦めるのももったいない。とりあえず、三山縦走ルートから取り付いて、様子を見に行ってみることにする。状態が悪くてモンブラン4810mは無理でも、1つ目のモンブラン・デュ・タキユール 4248mにだけでも登れればと思った。

3日、朝一番のロープウェイに乗るつもりであったがすでに1時間待ち。8:30 にやっと乗ることができ、エギュー・デュ・ミディ展望台へ。標高3842m、ロープウェイで一気に上がると、頭がくらくらする。登山口は、観光トンネルの横に伸びた、氷のトンネルから外へ出るようになっている。トンネル内で準備をして、アイゼンを履く。それを見守る妻と別れ、腰ほどの高さのフェンスを乗り越えて、いよいよ本場アルプスの山へ。

9:30 蒼暗い氷のトンネルから出ると、外の白銀世界が眩しい。最初は、急なリッジの下り。ガイドパーティはロープを出しているが、トレースがあるので独りでもそれほど不安はない。そのあと広い雪原をすすむ。すぐ横のミディの岩壁に取り付くク

ライマーが良く見える。青い空に尖った岩峰、絵になる景色である。

コズミック小屋の下を通して、次第に急になる雪面をモンブラン・デュ・タキユールに向けて登っていくと、11:00 クレバスに行く手を阻まれる。10mほど上の方に3mほどのフィックスロープがセットされた場所があるが、クレバスが広がったのか全く届かない。トレースに導かれて、クレバスの一番幅の狭いところがかぶり気味の氷壁に取り付く。まずは、ピッケルとバイルを思いっきり打ち込む。バイルは気持ちよく刺さるが、今回持ってきた軽量ピッケルは蒼氷には全く歯が立たず弾き返される。アイゼンを蹴り込むが、それも深くは刺さらない。体を持ち上げようと試みるが、どうしても体重をあずける気にはならない。単独でロープもないし、何より昔のような若さがない。落ちればクレバスの底へと思うと、無理はできない。何度かトライして、あっさりとあきらめることにする。

13:30 観光客だらけとなった昼時のエギュー・デュ・ミディ展望台に戻る。快晴の空のもと、目の前にモンブラン、反対側はるか遠くにはグランドジョラスが聳えている。しばらく絶景を鑑賞。登れなかった悔しさよりも、この山々に包まれている喜びの方が勝っている。もう登る人ではなく、眺める人になってしまっているのか。

14:45 予定より早くアパートに戻る。このままではゴンドラ券 1 日分がもったいないので、気持ちを切り替えて午後からは妻とハイキングに行く。ミディとは反対側のロープウェイを使ってプランブラ2000mへ。冬は、この辺り一帯はスキー場になるようである。さらに、もう一本ロープウェイを乗り継いで、16:00 ル・プレヴァン 2525mに上がる。足元にはシャモニの街。その向こうには、朝にいたエギュー・デュ・ミディ周辺が良く見える。モンブランが白く輝き、美しい。

広いハイキング道を約1時間で、プランブラまで下る。道端でワインを飲みながらランチをほおぼる人もいれば、側壁でロッククライミングに興じる人もいる。それぞれに、自然を満喫しているようす。プランブラからの下りロープウェイに同乗したのは、ご夫婦とお爺さんと孫の4人のクライマー。お父さんとお母さんの肩にはロープ、お爺さんの指や腕、お孫さんの膝には生々しい擦り傷があることから考えると、そんなに易しいルートを登って来たとは思えない。3世代でファミリークライミングとは、恐るべしフランス人。

帰りにレストランでメニューを覗くが、どれも高くて気が引けてしまう。結局、スーパーマーケットで食材とワインを買って、アパートでアルプス初ハイキングの祝杯とモンブランに乾杯。

4日、今日は観光とハイキング。8:30 昨日と同じく妻とロープウェイに乗り、エギュー・デュ・ミディ展望台へ。昨日は山に登るつもりで気負っていたが、今日はのんびりと観光気分で楽しむ。その後、ロープウェイで中間駅のプラン・ド・エギューまで戻り、9:40 そこからグラン・バルコン・ノードのハイキングコースをメール・ド・グラス氷河に向けて進む。山小屋の窓には花が飾られ、まるで絵葉書のような道は、シャモニ針峰群の懷をトラバース気味につけられていて、高低差が少ないので家族連れにも人気のようす。トレランの練習をしているお母さんとお爺ちゃんとお婆ちゃんが自分達のペースでハイキング。親子はしばらく走ってはお爺ちゃん達を待っているの、我々と抜きつ抜かれつ何度も「ボンジュール」と挨拶を交わす。

最後にひと登りして、11:50 シグナルフォールズに着くと、そこは最高の展望台。目の前にドリュの鋭く均整の取れた岩峰が、足元にはメール・ド・グラス氷河、それを目で辿っていくと奥にはグランド

ジョラスが聳えている。それらを眺めながら、のんびりとサンドイッチのランチを楽しむ。

ジグザグ道を下っていくと、13:15 登山電車の終着駅モンタンヴェール。そこからテレキャビンで下り、さらに階段をどんどん下ると、メール・ド・グラス氷河に掘られた氷の観光トンネルに到着。途中の階段横には、各年代の氷河レベルを記したプレートが張り付けてある。現在の氷河の位置は、1985年のプレートのはるか下、2015年のプレートからでさえ何十mも下にあり、とてつもなく氷河が後退していることを実感した。

モンタンヴェールに登り返し、登山電車でシャモニーに戻る。乗り鉄の妻は、かわいい登山電車に上機嫌。

5日、ロープウェイでプランブラへ上がり、9:00 昨日のコースの対岸となるグラン・バルコン・スッドをハイキング。ツール・ド・モンブランのコースの一部でもある。進むにつれてシャモニ谷の向こうに、モンブラン、メール・ド・グラス氷河とドリュ、そして、スイス国境のコル・ド・バルムと美しい景色が展開する。連日の絶景であるが、全く飽きることがない。途中、疲れの出た妻を説得し有名な白い湖ラックブランにひと登りして寄り道しようとするが、13:45 少し下のシェズリー湖までで折り返す。その後、北アルプスの雲ノ平のような所をのんびり進み、急な山道をコル・ド・モンテまで下る 15:55。モントロック駅から電車でシャモニへ戻る。

明日でこのアパートもチェックアウトとなる。シャモニに残ってキャンプをするか、別の所へ移動するかを相談し、スイスのツェルマットへ行ってみることにする。

・ツェルマット ハイキングとブライトホルン登頂

6日、シャモニからツェルマットへは、電車で約4時間。3回乗り換えることになる。シャモニの駅員

さんにくどいほど何度も乗換駅の名前を確認していると、時刻表の駅名に丸印をつけてプレゼントしてくれた。ヴァロシンで乗り換えた電車は急峻な山の中を車輛下のギアを効かせて進んでゆく。スイス側の平地に降りて、マルティグニで2回目の乗り換え。沿線にアブリコットの畑が続く。ヴィスプで3度目に乗り換えた電車は、再びギアを効かせて山の中へ入っていき、無事ツェルマットに到着。観光案内所で情報を仕入れ、駅の近くにあるツェルマットキャンプ場に TENT を設営する。移動できるテーブルや椅子があり自由に使うことができる。すぐ横にスーパーマーケットがあり、買い物も便利。

7日、あいにくの雨。仕方がないので、傘をさしてツェルマットの街歩きとする。いろいろなアウトドアブランドの店があり、ぶらついていだけで楽しめる。サマーバーゲン中で記念に何か買おうと思うが、典型的日本人体型の私には、服は袖が、ズボンは裾が、靴は幅が合わないので諦める。昼食には、ちょっと張り込んで有名レストランでチーズフォンデュを注文。鍋に残ったチーズをもったいないとすべてさらえると、夜にお腹をこわした。酪農文化に腸内細菌が適合していないのか、単なる食べ過ぎか、やっぱり飲み過ぎか。

8日、天気が回復傾向なので、登山電車とロープウェイの1日券を購入し、それを最大限利用するハイキングコースを想定。まず朝一番7:00の登山電車でゴルナーグラート展望台 3090m に行き、8:10 ゆっくりと歩いて下りながら、周囲の景色を堪能。モンテローザとゴルナーグラート氷河が美しい。マッターホルンを正面に見て進む。山々をバックに登ってくる登山電車を眺めるのも面白い。8:55 リフェル湖では、ガスも晴れて風もなく湖面にマッターホルンが写っている。リフェルバルクまで歩き、10:00 ゴンドラで一旦フリーへ下る。

上りロープウェイに乗り換えてクラインマッターホルン展望台 3817m に行く。上はスキー場となっていて賑やか。景色を楽しんでいると、目の前に何だかロープ無しで登れそうな山を見つける。登山客とロープの片付けをしているガイドに色々尋ねてみる。山の名前は「ブライトホルン」とのこと。どれくらい時間がかかるのか、どれくらい難しいのかと矢継ぎ早に尋ねると、ハイカー姿の私を足元から頭の先まで見回しながら、うーんと考え込んだ後、「それはあんた次第かな」とユーモアたっぷりに言って、仲間のガイドと大笑い。ごもつともです。

ロープウェイで中間駅トロッケナー・シュテークまで降りて、11:55 マッターホルン・グレイシャー・トレイルをハイキング。氷河湖を経由して、マッターホルンの麓に行く。進むにつれて、角度を変えながらマッターホルンが目前に近づいてくる。ヘルンリ小屋も見える。14:40 シュヴァルツゼーで下りゴンドラに乗り、ツェルマットに戻る。

欲張ってもう一本ハイキング。15:30 ケーブルカーに乗ってスネガに行き、ゴンドラでブラウヘルトに上がる。その先のロートホルンへはロープウェイが工事で運休。片道1時間ほどの散歩でシュテリ湖。ここも湖に映るマッターホルンで有名な所だ。ゆったり景色を楽しんでいると、ゴンドラの下り最終時刻 17:10 が迫っていた。走って戻り何とか間に合ったが、ゴンドラ駅で飲んだ1本のビールがよくまわった。キャンプ場に 18:00 に戻る。ツェルマットの主な人気ハイキングコースをめぐる長い1日となった。

スイスでは、物価が少し高い目である。お手頃な食材は太いソーセージで、連日購入。ハーブが入ったいろいろな種類があり、湯がいてケチャップやからしをつけて食べると、なかなかうまい。冷たいビールといきたいところであるが、キャンプ生

活ではすぐに温くなってしまうので、ここはやはりワインとなる。

9日、キャンプ場に妻を残し、昨日見つけたブライトホルンに独りで登りに行ってみる。6:20 朝一番のロープウェイは、屈強なスキーヤーで満員。声をかけてみると、スイスのナショナルチームのメンバーだった。早朝の雪が締まっている間だけ練習をするとのこと。美人のお姉さんでも、4セットほどのスキーを軽々と小脇に抱えていくパワーの持ち主だった。

クラインmatterホルン展望台からスキー場へ出て、出発準備。7:40 リフトの下をぐり、雪原をブライトホルンの懷まで回り込む。数パーティが同じコースに行く様子。いよいよ傾斜が急になる辺りでアイゼンを履き、トレースに従って進む。1 か所クレバスをまたいで超える。何てことない斜面ではあるが、凍っているので転倒するとゴンドラから見えていた岩場に墜落かと思ひ緊張する。尾根に出て、しばらく進むと 9:00 ブライトホルン山頂 4164m に到着。景色を楽しんでいると、次々と後続パーティが登ってくる。ガイドが客の体力や技術を確認するテストコースとなっているそうである。すたこらさっさと雪原まで降りると暑いくらいで、上着を脱ぎアイゼンを外す。もう緊張感もなく、雪原をだらだらと 11:00 展望台に戻り、ロープウェイでツェルマットまで下る。午後はのんびり過ごし、テント前にワインの空ボトルが2本転がることとなる。

・再び、シャモニへ

10日、もう一度、モンブラン登山へのチャンスを求めて、電車でシャモニへ戻る。アロールキャンプ場で手続きをして、観光案内所へ。グーテ小屋のキャンセル状況を確認してもらうが、やはり無理そう。天気も崩れていく周期になってきている様子。

もうモンブラン登頂に執着せず、いろいろなハイキングコースを楽しむことにする。

11日、今日は、スイスとフランスの国境の峠、コル・ド・バルムへ。電車でヴァロシンへ行き、テレキャビンで 1900m の草原まで上がる。10:55 冬はスキー場、夏の今は牧草地のハイキング道を進むと、12:00 コル・ド・バルム 2190m に着く。峠には、お洒落な小屋とスイス・フランス国境の石柱があり、記念撮影。小屋のテラスでモンブランビールをグイッと飲むと、気分は最高。

牧草地をフランス側を下る。放牧された牛のカウベルの音がカランコロンと心地よい。ハイキング道とは別に、マウンテンバイク専用のコースがある。リフトにマウンテンバイクを積んで上がり、ジャンプなどしながら、かなりのスピードでぶっ飛ばして下ってくる。いろいろ遊び方を見つかるものだと感心する。14:10 ル・トゥールまで下ると、ちょうどシャモニ行きのバスが来た。マウンテンバイク用の便だったが、空いていたので乗せてもらえた。バスの前半分が座席で、後ろ半分が自転車置き場となっている。なぜか、キャンプ場近くのバス停より手前の、駅の近くで降ろされてしまった。

12日、今日は雨の天気予報。バスでレ・ゾーシュへ行き、案内所で地図をもらう。バス停前の出店で昼食を物色していると、ソーセージ売りのおばさんがやたらフランス語で話しかけてくる。訳が分からないでいると、近くにいた人が英語に訳してくれた。なんでも娘さんが日本人と結婚して東京にいるらしい。勢いに押されて煮込んだソーセージを買うと、大盛サービスしてくれた。11:30 周辺を散策。公園のベンチで昼食をとっていて、ふと横の池を見ると沢山の魚影が。近づいてよく見ると、40cm ほどのマスが流水口に群れている。手掴みで採れそうだったが、妻の顔をうかがいながら控える。ちょっとした岩場もあり、クライミングの練

習をしている人たちもいた。小雨が降る中、森の中の散歩道を辿っていくと、14:10 結局、隣村のセルヴォーズまで行きつく。田舎でも、家々は花で飾られ、オシャレで見ていて飽きない。電車でシャモニへ戻る。

13日、今日も天気予報は思わしくない。バスでレ・ズーシュへ行き、駅前からシャトルバスでメルレー動物園に行く。広く囲われた山の中に、シャモアやアイベックスなど、いろいろなシカ類やシャモニ谷の動物が放し飼いされている。なぜかニホンシカもいた。結構人気で、人が一杯。ここからのモンブランも美しい。帰りは、森の中を駅まで下り道を1時間のハイキング。

シャモニでのキャンプ自炊生活にも、慣れてきてなかなか楽しい。トイレは清潔、ちょっと混雑するが温水シャワーも利用できる。不用品コーナーには、ガスカートリッジやいろいろな食材が置いてあって、自由に使うことができる。スープ類をよく頂戴したが、一番の気に入ったのは胡椒。5種類くらいがブレンドされていて、それをゴリゴリと挽いて肉にかけると最高の味となる。結局使いきれずに残ったが、不用品コーナーには戻さずに日本に持ち帰った。

シャモニには、スーパーマーケットが数軒あるが、スーパーU が安くて品数が多いのでお勧め。最初は、調理済み惣菜やパック商品を買うことが多かったが、次第に、野菜や肉の量り売りにも挑戦。アプリコットが美味しかった。山積みされている中からおいしそうなものを選び、ビニル袋に入れる。画面で品名を選択して秤に乗せると、出てくる金額シールを袋に貼ってレジへ。肉売り場には、牛や豚、羊などのいろいろな部位の肉が、塊で置いてある。それを指さして、分厚さを親指と人差し指で示すと、肉屋のおじさんが塊に包丁を当てて、「これくらいか」と聞いてくる。「もうちょっと分厚く」

と指幅で示すとそれに合わせてくれる。「それを4枚」とか、「一口大にして」とか、身振り手振りでコミュニケーションをとっていると、注文が終わる頃には、お互い笑顔。チーズは種類が色々あり過ぎてよくわからない。他の客が選ぶようすを観察して、真似して同じ物を買ってみた。毎日通っていると、この街の住人になったような気分になってくる。ステーキとサラダとチーズ、そしてワインの日々。

・ドバイで足止め

14日、いよいよ帰途に就く。前日予約したバスに乗り、ジュネーブへ移動。エミレーツ航空に搭乗して予定通り15時頃に出発、深夜にドバイ到着。しかし、関西直撃の台風の影響で夜3時発の関空便が遅れるとのこと。仕方がないので、表示された時刻まで待ってみるが、一向に搭乗手続きが始まらない。そして、結局欠航となる。これからどうすればよいのか、深夜の空港をまわって、エミレーツ関係者にいろいろ聞いて回るが、聞く人によって答えが違い要領を得ない。最終的には、エミレーツが用意したホテルに泊まり、翌日の夜の便に乗れることになって一安心。

15日、早朝5時にホテル着。今回の旅の初ホテル、コップ・ゾーン・エアポートホテルは、なかなか立派。さすがアラブ首長国連邦のエミレーツ航空、オイルマネーの恩恵に。食事は、全てビュッフェ形式で無料食べ放題。今までの儉約自炊の反動か、毎食つい食べ過ぎる。

ずっとホテルにいても退屈なので、ドバイの半日観光を申し込む。車で、モスクや高層ビル街などを案内してくれるが、車を降りると外があまりに暑くて耐えられない。よくこんな灼熱の大地に人が住んでいるものだ。ノークーラー、ノーライフ。

ホテルマンの案内に従って深夜に空港へ戻ると、関空便の搭乗ターミナルが表示されていない。ま

たまた空港内をいろいろまわってやっとのことで搭乗ターミナルを聞き出す。ターミナルで待っていてもなかなか搭乗手続きが始まらないけど、日本人が一杯いるので根拠のない安心感。予定より2時間遅れで、やっと関空便に乗ることができた。

16日夕方、予定より1日遅れの16時過ぎ、無事に関空に到着。台風の影響が残る中、有難いことに大森さんが車で迎えに来て下さり、家まで送っていただく。

少し舐めてかかっていたところもあったヨーロッパアルプスの山旅。結局、あまり大した山には登れずに終わってしまいました。今回、もし落ちても止めてくれるザイルパートナーがいれば、モンブランも登れたような気がします。そう思うと、今までいろいろな山でロープをつないでもらった仲間の存在の大きさを再認識しました。若い頃はどこでも一人で大丈夫と思っていましたが、長い山遊び人

生の中で今まで生き残ってこれたのは、沢山の方々にお世話になったおかげですね。

異常高温による不安定な氷河、パートナー無し、ロープ無しなどと、いろいろと思ひ浮かぶ言い訳は置いておいて、これが今の自分の実力と認めるのが妥当かと。自分が思っている以上に体力も気力も低下していることを確認し、これからの安全登山に役立てていきたいと思います。

本場のアルピニズム文化に触れながら、連日のハイキング三昧、ワイン三昧、アパート生活、キャンプ生活。どれも思い出に残る楽しいものでした。今回出会った多くの山を愛する方々のように、気負わず焦らず、これからも自然とお付き合いしていきたいと思っています。

ア ル バ ム



ミディ展望台より、モンブラン三山縦走ルート
左端モンブラン・デュ・タキューール、中央奥モンブラン
右スカイラインが一般的なグーテ小屋からのルート



ミディ展望からの登山口



モンブラン・デュ・タキュールへの登り



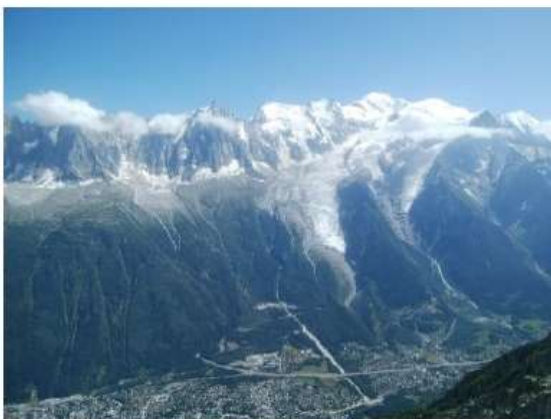
断念したクレバス



ミディ南壁



ミディ展望台より、右グランドジョラス



ブレヴァンから、モンブラン山群



ブラン・ド・エギュイ小屋
奥はグラン・バルコン・スッド方面



シグナルフォールプスより、奥はドリユ



メール・ド・グラス氷河は大きく後退
右端に1985年の氷河レベルプレート
遙か奥にグランドジョラス



モンタンヴェール・シャモニ間の登山電車
線路の間のギザギザにギアをこまらせて登る。



シェズリー湖



ゴルナーグラート展望台から、モンテローザとリスカム



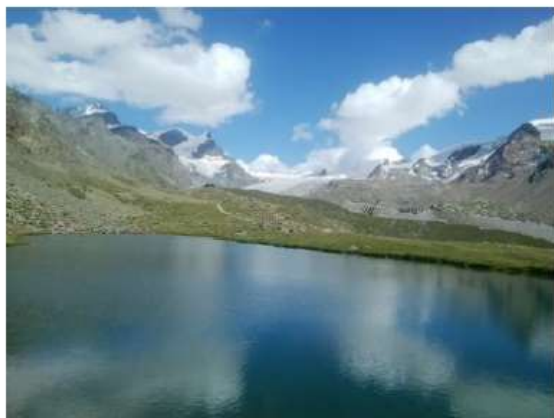
登山電車とマッターホルン



マッターホルングレイシャートレイルより



朝焼けのマッターホルン



シュテリ湖



リフェル湖



ブライトホルン 4164m



ブライトホルン 4164m 山頂



フランス・スイス国境の峠、コルド・バルムへ



国境の石柱
こっちはフランス、あっちはスイス



シャモニ アパート生活



ツェルマット キャンプ場



シャモニ アロールキャンプ場



メルレー動物園

沖縄クルージング（2016. 4. 27～5. 21）

水 渡 清 夫 （昭40 営）

メンバー：（船長）小西啓右（関学山岳会） 柏 敏明 水渡清夫 浪川純吉

クルージング航程概要：

4月27日（火） 新西宮ヨットハーバー泊
4月28日（水） 新西宮ヨットハーバー → 家島諸島・男鹿島泊
4月29日（木） 男鹿島 → 塩飽諸島・与島泊
4月30日（金） 与島 → 岩城島泊
5月 1日（土） 岩城島 → 松山市堀江港ほりえ海の駅泊
5月 2日（日） 松山港ほりえ海の駅 → 佐多岬・二名津漁港泊
5月 3日（月） （天候悪化で出港せず） 二名津漁港泊
5月 4日（火） 二名津漁港 → マリンピアむさし泊
5月 5日（水） マリンピアむさし → 北浦漁港泊
5月 6日（木） 北浦漁港 → 宮崎港本港泊
5月 7日（金） 宮崎港本港 → 志布志湾・内浦港泊
5月 8日（土） 内之浦港 → 種子島・西之表漁港泊
5月 9日（日） （天候悪化で出港せず）
5月10日（月） （天候悪化で出港せず）
5月11日（火） 種子島・西之表漁港 → 屋久島・安房港泊
5月12日（水） 屋久島・安房港 → (night run)
5月13日（木） (night run) → 奄美大島・名瀬港泊
5月14日（金） 名瀬港 → 奄美大島・古仁屋港泊
5月15日（土） 古仁屋港 → 沖永良部島・知名港泊
5月16日（日） 知名港 → 沖縄・伊江島
5月17日（月） 伊江島 → 沖縄・宜野湾ヨットハーバー泊
5月18日（火） 宜野湾ヨットハーバー泊
5月19日（水） 宜野湾ヨットハーバー泊
5月20日（木） 宜野湾ヨットハーバー泊
5月21日（金） 宜野湾ヨットハーバー、クルー下船 → 那覇空港へ

（沖縄クルージング）

2016 年

4月27日（火）

曇天、午後より小雨。夜 すき焼き

新西宮ヨットハーバー、小西さんのヨットであるナ

ウティキャット 321 バゲラに集合。航海用食料調達。夕食は豪華すき焼きで明日からの沖縄クルージング壮行会。雨は夜半には止んでいた。

4月28日（水）

(航 程) 新西宮ヨットハーバー7.10 → 家島諸島・男鹿島 14.40(45マイル)

【出港後すぐ、計器(エンジン回転数)不調で新西宮ハーバーに戻る。岡崎造船、金地氏来船。電源再投入で計器正常復帰。再出港8:30】

(天 候) 曇天、(出港時、一時小雨)強風波浪注意報が出ていたが波浪は2~3m。

(係 船) 播磨灘、家島諸島・男鹿島青井荘(予約済み)前ポンツーンに係船。(陸電、水道は無し) 朝 おじや 昼 ウイナーサンド 夜 外食

・5.5~6.5 ノット、機走。連れ潮、追い風から向かい風に。気温低め時々小雨で寒い。
家島、男鹿島付近は漁網ブイが散見。採石で剥き出しの岩肌をバックに青井荘がある。



・青井荘で入浴。生け簀から瀬戸内の鮮魚を選び刺身、唐揚げに仕立ててもらい豪勢な酒盛り晚餐。美味しい魚と浪川さんの愉快的「自慢じゃない自慢話」の三連発で大いに盛り上がり楽しく、おいし

い夕食になった。

はりいか(明石を代表するイカ、一般にはスミイカと呼ばれる)×2、鰯×1、ナマコ×1、ガシラ×4、オコゼ×1を活めの刺身に。はりいかのゲソは唐揚げに。

・ポンツーンは港外の波浪を防ぎきれないロケーションだが夜間は風もおさまり就寝時には船体の揺れはなくなった。

・ナイター阪神×巨人戦、阪神の負け濃厚で三人はゲンナリの様子。

4月29日(金)

(航 程) 男鹿島港 8.00 → 坂出市塩飽諸島・与島港 16.20。(45マイル)

(天 候) 晴れ、気温は低めでやや寒い。

(係 船) 与島港・ポンツーンに係船。(陸電、水道、無し)

朝 焼き飯 昼 菓子パン 夜 バーベキュー

・朝日を浴び美しい瀬戸内を眺めながら気分よく出港。この日も強風波浪注意報が出ていたが海上は10~12m(時々15m)の順風で航海の前半は帆走。後半風向き変わり機走に切り替え。気温上昇せず海上で吹かれ続け寒い。

小豆島に近くでトイレトラブル発生。急遽小豆島大部港に寄港。柏の神業タッピング(?)でトラブル解消し航海続した。

・与島は瀬戸大橋唯一のパーキングエリア(PA)が設置されている島として紹介されているが関連商業施設はすべて閉鎖されており車の出入りもない。

・港では丸亀のヨット仲間(三谷夫妻、富井夫妻ほか20数名)の皆さんからバーベキューのお誘いを頂き参加。三谷氏、富井氏より沖縄方面のルート、港などの情報を教えていただき楽しく有意義な交歓のひと時を過ごした。



4月30日(土)

(航 程) 与島港 8.05 → 愛媛県上島町・岩城島の駅 14.15 (36.2マイル)

(天 候) 朝は快晴、べた風だったが、午後岩城島接近につれ風速12~15mの強風。

(係 船) 岩城島の駅・ポンツーンに係船(予約済み)。(陸電有り、水道無し)

朝 干物 昼 握り飯 夜 焼き肉

・丸亀の皆さんに挨拶し出港。五月晴れの美しい瀬戸内海を快適に航海。

今回のクルージングでは小西船長の提案で、操船を「入出港時は小西が、それ以外は原則として全員で一時間ごとに交代」としている。瀬戸内海は漁網など障害物が多く気の抜けない操船となり、時として緊張するが面白い。

・連休中だが上島町岩城総合支所産業振興課の担当者が受け入れを対応。

区役所で生ごみ処分 OK(ゴミ袋を購入)は助かる。

・給油51L(4,743 円)。A コープで食料調達。近くの菰隠温泉に出かけ汗を流す。

・評判の鮮魚料理の店「よし正」は予約満席で夕食は焼肉の船食。



5月1日(日)

(航 程) 上島町岩城島の駅 8.20 → 松山市堀江港(まりえ海の駅 14.45 34マイル)

(天 候) 快晴。

(係 船) まつやま・まりえ海の駅「うみてらす」ポンツーンに係船。(陸電、水道有り)

朝 味噌おじや 昼 ホットサンド 夜 おでん、浪川さん特製スモークチキン

・航海中5~10mの向かい風。しかし波浪被らず安定した機走航海。航海中は風に体温奪われ寒いが、入港すると日差し強く、航海中とは違い気温上昇し暑い。

・明日以降しばらく食料調達しにくくなるのでスーパーで食料購入し水を補給。

船体を洗う。



5月2日(月)

(航 程) 松山市堀江港海の駅 5.10 → 佐多岬
二名津漁港 12.40 (43 マイル)

(天 候) 晴れ(薄雲高曇り)

(係 船) 二名津漁港西岸壁の接岸。(陸電、水道無し)

朝 握り飯 昼 ペヤング焼きそば 夜 横須賀カレー

・明日(3 日)は低気圧・前線の通過、天候悪化を予想し、今日は距離を稼ごうと早朝の出港。三机港をスキップし二名津漁港まで船足を伸ばした。順調航海で予定より早く昼過ぎの接岸となった。明日の荒天(風速 20m を予想)に備え漁港のアンカーロープを使い船体の安定を確保。夕刻より徐々に天候悪化の兆しが見えてきていた。

5 月 3 日(火) (荒天のため出港せず。)

朝 カレーうどん 昼 フレンチトースト、鱈の燻製 夜 ペペロンチーノ

・天候は予報通り早朝より大荒れ。風雨激しく、間歇的に吹く突風(風速 25m 前後)で海水がしぶきとなり砂塵と見まがう様子が吹き上げられていた。

・漁港のアンカーロープを使い船体を岸壁より少し離れた係留は大変有効で、船体の揺れは少なく安定。風、波浪による岸壁への衝突も回避できた。夕方(18 時頃)には風雨はおさまり天候は回復してきた。

・この港は人口少なく、A コープはあったが連休中でクローズし使えない。



5月4日(水)

(航 程) 佐多岬二名津漁港 5.30 → 国東半島
マリンピアむさし 10.45(21 マイル)

(天 候) 晴れ、風は強い。

(係 船) マリンピアむさし・ポンツーンに係船(陸電、水道、シャワールーム有り)。

朝 クラッカー 魚肉ソーセージ 昼 ラーメン 夜 鮭のムニエル サラダ

・天気晴朗、風強く10～15m(時に22m)波浪高く機・帆走で進むが途中でセイルを仕舞う。波しぶきを浴びながらの航海。

出港間もなく電気系統に不具合が発生(スピードメーター、エンジン回転数メーターの反応不良。水深計ダウン。バッテリー充電低下など)でこのままでは航海継続は無理と判断。

・点検修理のため急遽エンジニアのいるマリンピアむさしに向かうことに(本日の目的港は宮崎県延岡市北浦港で、58 マイルだった)。(エンジニア)中野、河野来船し応急の対処。

不安残るが明日の出向は可能と判断。

・峰さんのヨット入港(紅灯記オーナーほか長崎のメンバー3名)。歓談。峰さんは今日帰阪。

・シャワールーム利用。水補給。食料補充調達。コインランドリー利用。



5月5日(木)

(航 程) 国東半島・マリンピアむさし 6.20 → 延岡市北浦魚港 17.00 (65.1 マイル)

(天 候) 晴れ。

(係 船) 延岡市北浦港 朽ちた木組み(ポンコツ)のポンツーンに係船。(陸電、水道無し)

朝 おじや 昼 菓子パン 夜 外食 ハマチ、サザエ、イサキ、サラダ他

・終日穏やかな向かい風(3～7m)。波浪なく連れ潮に乗り6～8ノットを維持。入港時、港周辺には定置網、生け簀など漁網多く、神経を使う。港のある島浦湾は天然の良港で漁港に隣接。居酒屋では昨日の荒天で魚の入荷がないとのことであったが、それでも結構うまい魚を出してくれた。

5月6日(金)

(航 程) 北浦港 7.00 → 宮崎港・本港 16.00 (51.8 マイル)

(天 候) 小雨、微風(3～6m)。

(係 船) 宮崎港・本港岸壁係船。(陸電、水道無し)

朝 磯辺餅 昼 焼きそば 夜 手羽先煮込み サラダ

・曇天、小雨降ったり止んだりの陰鬱な海上を航行。雨、もやで霞む長大な宮崎海岸線を南下。波浪には悩まされなかったが濡れて寒く、ガマンの航海だった。

・途中のサンマリーナは前回と同じで入港、停泊はお断りだった。宮崎港・本港はこれも前回と同じ港外れの突堤岸壁に係船。

・熊本大地震はまだ終息せず今日も余震が頻発とのニュースが流れている。

5月7日(土)

(航 程) 宮崎港・本港 6.10 → 志布志湾・内浦港 16.00 (53.4 マイル)

(天 候) 曇り→晴れ、微風(3～5m→5～10m)

(係 船) 内浦港岸壁に係船。風呂、コインランドリー有り。

朝 乾パン 昼 握り飯 夜 外食 刺身盛り合わせ、伊勢海老活け造り他

・天候は徐々に回復し薄日から晴天に。風速も5～10mに。海上はウネリあるが穏やかな海上を順調航海で志布志湾・内浦港に入港。

・航海途中、漁船の仕掛け網にニアミス。その回避操船でトローリング中の釣り糸が船底に絡まり二度目のトラブル。浪川の洋上での潜り作業で解決し事なきを得た。彼の対応能力の高さに感謝した。

・日程やや遅れ気味なので、明日は屋久島宮之浦港を検討したが1)天候も下り坂であること
2)黒潮のアゲインストの問題(2～4ノット)があり難しいと判断。

・小西船長から「そろそろ皆疲れがたまってきているのでは？」との気遣いで民宿泊まりの提案があったが、居酒屋(地魚活魚「網元」)で酒盛りの夕食で船泊まりとなった。

5月8日

(航 程) 志布志湾・内浦港 6.30 → 種子島・西之表魚港 13.30 (38 マイル)

(天 候) 雨、降ったり止んだり(入港時、雨脚は強くなった)

(係 船) 西之表漁港・岸壁に係船。陸電、水道無し。近くに温泉(赤尾木温泉)、コインランドリー有り。朝 ラーメン 昼 焼きそば 夜 ハンバーグ、温野菜

・出港後しばらくは黒潮・逆潮の影響はさほどではなく機・帆走で 6.5～7ノットをキープしていたが種子島に近づくにつれ逆潮が強まり、またウネリも高く船体のローリング厳しい(波は被らない)。(追い風、7～12m)。

・岸壁係留で接岸時干潮、船体との高低差大きく岸壁に這い上がるのに苦労する。係留岸壁は漁

船の陸揚げ場に近く、休日明けの明日が気になる。

・温泉に入り、コインランドリーを利用した。



5月9日(月) (荒天のため出港せず)

朝 フレンチトースト 昼 ラーメン 夜 水渡さん特製かつカレー

・明け方雷鳴激しく大雨の荒天。強風波浪注意報も出された。

・係留場所を移動。漁協のさらに奥の岸壁。

・プロパンガス充填。(2kg、1,160 円)

・港近辺を散策。宮崎サンマリーナを母港とする大西氏(以前、青島港で挨拶、面識あり)が来訪。ラーメンを食いながら情報交換。麻雀ブリッジで時間つぶし。

・今日も温泉に入り快適。

・就寝時湿度高く船内蒸し暑く寝苦しい。



5月10日(火) (天候悪化で出港せず。)

朝 握り飯 昼 ピザ 夜 炒め物、酢の物

・朝方、風雨強く、雷鳴。この日も強風波浪注意報出された。

・この狭い港に巨大観光船・ASUKA IIが接岸。あいにくの曇天、小雨のなか老人たちが種子島、世界遺産の屋久島へ観光に出かけて行った。

・昼過ぎ、サーファーで陶芸もやっているという木下氏が来訪。これからのクルージングコース、潮流情報などアドバイスをもらい、さらに自作の陶器(湯呑)を記念にと頂いた。

・昼、しゃれた喫茶店でピザ、コーヒー。後、この日も温泉利用し、釣具店でトローリング仕掛け購入。

5月11日(水)

(航 程) 種子島・西之表港 8.15 → 屋久島・安房港 14.00 (14マイル)

(天 候) 強風、西の風

(係 船) 屋久島安房港、岸壁に係留。陸電、水道無し。

朝 握り飯 昼 堅パン ハム 夜 焼き飯

・海上は強風で波浪高く(この強い西風は昼頃にはおさまらと思っていたが思惑が外れ)ウネリも重なり煽られ難渋。

・木下氏の情報を参考に種子島西岸沿いを南下。結果黒潮の逆潮はかなり避けることができた。

・接岸後の港内は爽やかなかぜで気分良いが、日差し厳しく真夏を感じさせる。

・A コープで食料、水を購入。喫茶店「Smiley」でコーヒー。

・接岸岸壁は高低差大きく上陸には脚立を梯子にして這い上がった。



5月12日(木)～13日(金)

(航 程) 屋久島・安房港(12日)5.15→(夜走り)→奄美大島・名瀬港(13日)9.00。(150マイル)

(天 候) 快晴→晴れ。微風。

(係 留) 奄美大島・名瀬港岸壁に係船。陸電、水道無し。

朝 バナナ 昼 ホットサンド 夜 クッキー

朝 餅入りそば 昼 握り飯 夜 外食 鍋島 焼き肉

・本日は名瀬港まで約 150 マイルと長距離航海で夜走りを前提として早朝の出港。

快晴、追い風微風(4～5m)茜色に染まる早朝の出港。天候は安定、順風を受けフルセールで帆走。ヨット航海の醍醐味を満喫しながら快適な航海を楽しむが黒潮の影響でエンジン稼働させても対地5ノットがやっと。

・夕食後小西船長がバッテリー不調を指摘(エンジン稼働中も充電されていない)。冷蔵庫などの電源を Off に、使用する電力は船外灯など必要なものに絞り節電。

・ナイトランチームは小西、柏組と浪川、水渡組に分け2時間ごとに交代。夜間の天候は概ね晴れが持続したが風強まり船速は対地 5.5～6.0 ノット。

・オートパイロットをセット。操船は主に他船とのニアミス回避、岩礁、海上浮遊物ウォッチ、航行のルート、気象、潮流状況把握などだが、暗闇での

海上監視は気の抜けないことが多く緊張を強いられる。

- ・予定より早く奄美大島名瀬港に入港。ホテルで入浴し疲れを癒す。コインランドリー利用。
- ・港近くのヤマハ代理店(?)店主に来てもらいバッテリー充電不調を解決。(エンジンベルトの緩みが原因)
- ・水渡は歯医者で歯痛(昼飯のバケットサンドイッチを齧り奥歯グラつく)を応急処置。



5月14日(土)

(航 程) 奄美大島・名瀬港 7.20 → 奄美大島・古仁屋港 14.45 (40)マイル

(天 候) 曇り→晴れ。

(係 船) 古仁屋海の公園の岸壁に係船 陸電無し、水道有り。

朝 餅雑炊 昼 なし 夜 小西特製ビーフシチュー 冷奴 鯉叩き サラダ

・朝、前夜焼肉屋で一緒になった利岡氏(ヨットで日本単独周回中、横浜市在住)来船し歓談、朝食を共に。

・晴天の航海日和に恵まれ、美しい青い海の大島海峡をゆっくり回遊航行。

・古仁屋港奥、海の公園ビジターバース(橋手前右折、水路に面する岸壁)に係船。

せとうち海の駅の平岡(女性)さんの出迎えを受ける。

・水、軽油補給(110L. 14,000 円)、食料を補充。

・風呂に入り、お茶の店の喫茶室でコーヒー。



5月15日(日)

(航程) 奄美大島・古仁屋港 4.50 → 沖永良部島・知名港 15.00 (78 マイル)。

(天候) 出港時曇天、後回復し晴天。

(係船) 沖永良部島・知名港岸壁係船。陸電、水道無し。

朝 なし 昼 握り飯 夜 ベーコンステーキ サラダ

・天候は回復し晴天。連れ潮、良風アビームで絶好のクルージング日和。フルセールで帆走。機走も重ね 7 ノット(時に 8 ノット)で快適航海を満喫。予定時間を大幅に短縮して 知名港に入港した。

・明日から梅雨入りで天候は下り坂。港近くのホテルで入浴。地元スーパーで食料補充。

5月16日(月)

(航程) 沖永良部島・知名港 5.30 → 沖縄県・伊江島港 15.00 (57 マイル)

(天候) 薄曇り→風雨強し

(係船) 沖縄県・伊江島港入口正面岸壁に係船。陸電、水道無し。

朝 クラッカー 昼 握り飯 夜 トリサラダ 目刺し

・出港しばらくは薄日の差す高曇り、波高 1~1.5m、順風。ジブ、メインセールだし帆機走 6~7 ノットで快走。しかし予報通り天候は悪化に向かい、連続して繋がる積乱雲の雲列 と雲列の間の陰鬱な廊下のような海上を 6~7 ノットで進んだが伊江島に近づくあたりで天候は急激に悪化、風雨強まり時化状態になった。

本日沖縄・奄美地方は梅雨入りとなった。

・伊江島はよく整備された明るい南欧リゾートの雰囲気、港施設も新しい。

伊江島港の奥岸壁は停泊中のヨットが多く、込み合って接岸は難しくやむを得ず港入口正面岸壁に接岸係船した。



5月17日(火)

(航 程) 伊江島港 8.00 → 宜野湾ヨットハーバー 12.40 (27.4 マイル)

(天 候) 雨まじりの梅雨空。

(係 船) 宜野湾ヨットハーバー・ビジターバース・ポンツーンに係船。陸電、水道有り。

朝 鶏飯 昼 餅ラーメン 夜 すき焼き

・6.00 起床。気象情報を収集分析し出港を決定。雨模様の海上を昨夜の予想通りの追い風(14～15m)で 6.5～7 ノットで進み、県外のヨットで満杯状態の宜野湾ヨットハーバーに入港。ハーバー事務所と係船契約を結ぶまでの間ビジターバースに係船した。

海上から見える宜野湾市はビル建物が林立する大きな都市で、話題になったオスプレイが飛び交うのが見える。

・入港に際しヨットハーバーの事前了解の取り付けや係船契約の事前根回しなどお世話になった小林達郎氏にお会いし歓談。夕食に小林氏を招き沖縄事情を伺いながら、すき焼き酒盛りの会食で楽しく盛り上がった。

・今回の沖縄クルージングの航程はこれで完了。明日以降 21 日までは宜野湾ヨットハーバーとの係船契約、ヨット移動、船体整備、清掃、衣料クリーニング、船内防虫作業、沖縄観光などで過ごすことになる。

5月18日(水)

(天 候) 雨 朝 うどんすき 昼 パン コンビーフ 夜 外食

・小林氏立ち合いで宜野湾ヨットハーバーとバース係船契約を締結。

・夕刻柏の会社の元部下・上原孝子さん来船。上原さん紹介の沖縄居酒屋(一郎屋)で酒盛り。

5月19日(木)

(天 候) 終日、降ったり止んだりの梅雨空。

朝 モーニングコーヒー 昼 ラーメン 夜 ハンバーグ

・私物衣料をコインランドリーでクリーニング。

・ジブセールを取り外し収納。

・2 か月間沖縄を留守にするため船体を厳重繋船する。

5月20日(金)

(天 候) 晴れ時々曇り。

朝 なし 昼 島そば 夜 嘉手納マリンスターキ

- ・ヨット装備の敷布、毛布、シュラフなどをコインランドリーでクリーニング。
- ・レンタカーで普天間基地、嘉手納基地、沖縄海洋博水族館などを観光。
- ・夕食は嘉手納基地米軍マリーナにある「マリーナレストラン」でステーキで会食。

5月21日(土)

(天 候) 曇り

- ・BAGERAの戸締りをして下船。那覇空港より帰途へ。

補 足 柏 敏 明

2016年6月に水渡さんから原稿を預かっていましたが、その時は、山岳寮にヨット航海記はどうだろうかと話し合い、そのままにしていました。今春、安井さん宅で塩崎さんにお会いした時、何か原稿を、山に限らなくても良いからとも言われました。自然を相手に山と共通する所も多く、ヨットに乗って、こんな事をしているんだと知って貰う良い機会と思い、水渡さんの了解を得て、この度、投稿させて頂きました。

なお、宜野湾港に係留していたバゲラ号を回収に、2016年7月20日に、小西、小西さんの友人、柏が空路那覇空港へ飛び、慶良間諸島、伊江島、徳之島、奄美大島、トカラ列島屋久島、硫黄島とクルージングを楽しみ、長崎出島港を経て、サンセットマリーナに係留。8月6日、空路、伊丹に帰って来ました。現在もサンセットマリーナにバゲラは係留されており、折々に、五島列島や九州の南西部のクルージングを楽しまれています。

山嶽寮 命名由来

甲南山岳部・甲南山岳会の会報が 山嶽寮 なわけ

山嶽寮の由来は、昭和の始めに旧制高校山岳部員が御影の長屋の一室を借りて、「山嶽寮」と表札を掲げ、仲間の夜の集いの場所としたことにあります。左翼学生のアジトになるのを恐れた学校当局に閉鎖を命じられ、結局数日のはかない夢となってしまいましたが、その後、山岳部の発行する「部報」、「部内雑誌」、「時報」などの誌面の一部に「山嶽寮」なる欄をもうけて、部員やOBが云いたい放題を記事に出来る場を提供してきました。

今の「山嶽寮」はその流れを受けて、甲南山岳会通信第31号(昭和51年)から誌名として採用されたもので、以来使われている表紙の題字は故香月名誉会長によるものです。

詳しくはいくつかの記事がありますので、ご一読下さい。

- ① 香月慶太 ”山岳寮炉辺譚” 「山嶽寮」第31号(昭和51年):「時報」No.VI(1960)からの転載。
- ② 越田和男 ”あとがき” 「山嶽寮」第31号に誌名に採用した経緯あり。
- ③ 香月慶太 ”山岳寮爐辺譚” 「山嶽寮」創部75周年記念号(2001年):「部内雑誌」VII-II(1936)からの転載。

(越田さんに情報をいただきました。編集)

一 寄 稿 一

赤松恵美子様からのお便り

昨年 2019 年 10 月に山嶽寮 74 号をお送り頂きまして有難うございました。いつも主人(旧 14 理 赤松二郎)と一緒に楽しみに読ませて頂いておりましたが、2020 年 5 月 2 日 100 歳と 4 カ月の天寿を全うして旅立ちました。

学生時代は岩登りばかりしていたようですが、私と歩くようになってからは何日もかけて縦走するようになりました。そのうちに 3000m 級の山を意識するようになり、1981 年に 27 座を完登するのに 11 年かかりました。北海道の利尻岳や羅臼 - ここからは北方領土 国後島が見えました - 旭岳、後立山全縦走など旅といえば山でした。高所恐怖症の私を落としたら大変だとザイルを腰に巻いてくれたこともありました。

主人の母を見送ってからは、エベレストを見たいと 1980 年 4 月に 1 ケ月ネパールへ。シェルパの助けを借りて 5200m のカラパタールまで行き、あこがれのエベレストの頂きを見ることが出来ました。雨期である季節を選んだのはネパールの国花ラリグラス(石楠花)が咲いているからでした。

同じ年の 7 月に 40 日間ヨーロッパアルプスへの気ままな旅に出掛けました。グリンデルワルトからユングフラウヨッホへ、ツェルマットではマッターホルンへのトレッキング。シャモニーではモンブランを眺めにイタリア国境まで。いずれもロープウェイやゴンドラで登っては牛の放牧地や林の中を歩いて降り、安宿を見つけては泊り、ユーレイルパスのおかげでノールウェイの北の終着駅ナルヴィックまでゆき、白夜を体験しました。

最後に登った山は 2002 年 8 月に上高地からい

つも見えている焼岳でした。その後徳沢小屋から奥又白の池へ日帰りで行って気が済んだようです。前穂から見おろせる所だとか。下の廊下や劔岳、屋久島にも行きました。

山嶽寮には主人も度々投稿しておりましたし、リハビリ施設でお世話になった阿部康彦様からは私の知らない山岳部時代の写真を頂き、主人と一緒に拝見しました。本当に有難うございました。私の宝物になっております。

余談になりますが、戦死した兄がチェリストだった影響もあったのかクラシック音楽が好きで、婚約時代からコンサートにはよく連れて行ってくれました。兵庫県立芸術文化センターが出来てからは定期演奏会には欠かさず行っておりましたが、歩行困難になり 2016 年 6 月が最後になりました。

山嶽寮が何時までも引き継がれますように。

私も 10 月には 94 歳になります。山での思い出を糧に生きてゆこうと思っています。改めてお礼申し上げます。

赤松恵美子

2020 年 9 月 5 日



1980 年 7 月 マッターホルンをバックに

編集から

赤松恵美子様へ電話を差し上げ、お便りの山嶽寮への掲載をお願いいたしましたところ『いろいろな思い出をお伝えできれば私もうれしく思います』と快諾いただきました。赤松恵美子様からは、2011(H23)年山嶽寮66号にもご夫妻の山旅について「共に訪ねた思い出の山々」と題してご寄稿いただいたこともありました。

また、お便りにありますように赤松さんからは何度もご寄稿いただき、37号・39号・50号・52号・54号などに奥様との山行記録があります。75周年記念号には「鹿島のおばば、狩野きくさん」「山のカミさんと共に歩いた30年」。そのほか、57号・58号の鷺尾さんの随想はじめいろいろな場面に赤松さんのお名前を見ることが出来ます。またずっとさかのぼって40周年記念号には1936(S11)年3月の「天狗より穂高小屋へ」、同年7月の「夏の荒沢」がご自身の手で、別に小川守正さんの「戦時下の山岳部」には1939(S14)年7月「池の谷より小窓尾根 池の谷側バットレス」(赤松リーダー・福井・小川パーティ)初登攀の行動が臨場感あふれる筆致で記録されています。

こちらもお便りにあります阿部康彦会員(平6法)の山岳会ホームページ掲示板書き込み(部分)も併せてご紹介いたします。

赤松二郎先輩の回想

阿部康彦

平成28年3月13日

私の勤めるリハビリ施設に赤松二郎先輩が来られました(97歳になっておいでです)。リハビリ中に昔の山行や旧制高校の思い出を語って下さる事が増えて参りました。甲南山岳会並びに、日本の山岳史黎明期のとても貴重なお話と思い、ご本人、ご家族の了承を得ましてこのサイトに投稿させて頂く事と相なりました。

①クリスチャンフッパの思い出

ドイツ人講師のクリスチャンフッパ氏は鷺尾顕先輩と仲が良い方で、緑の余りないかつての芦屋ロックガーデンを彼女同伴でよく散策されていたというお話。

②中畑政太郎氏の思い出

ジャンダルムなど穂高周辺のアタックベースとして、飛騨川に連なる白出沢に例年、幕営地を張っていた。テントや燃料、野菜などの食料などは、中畑氏に頼んでおく事前ベースにある程度準備して下さり、とても助かったそうである。(中略)ところで、ご自分たちの食料は何を持って行かれたのですかと、お尋ねすると阪急で缶詰を購入し持っていったそうで、パイン缶の事を一番に思い出しておられました。(後略) (書き込みの全体は山嶽寮72号をご覧ください)



1938(S13)年3月 鹿島槍東尾根 赤松/福田



1940(S15)年7月 北千島 村上/赤松 (敬称略)

— 追 悼 —

追憶 鷺尾顕先輩のこと

越 田 和 男 (昭36理)

甲南山岳会二代目会長(在任 1989～98 年) 鷺尾顕さんが昨年7月に亡くなりました。

旧制高校昭和15年卒で、享年100歳一步手前のご長寿であられ、甲南時代の山の仲間では、伊藤文三(ノキ)さん、福田泰次(フクデン)さん、小川守正(アヒル)さん、福井實(グリーン)さんらは既に亡く、一年上の赤松二郎さんもつい最近、100歳で亡くなりました。そんな訳で、遥か後輩の小生が拙文を認めることをお許し願いたい。

初めてお目にかかったのは、昭和30年代の中ごろ、当時まだ珍しかったニューヨーク勤務を終えられ、山岳会の総会に出席された時でした。甲南から東大経済学部をへて、当時の花形産業、糸偏の大手、大日本紡績(現ユニチカ)に就職されたエリート・サラリーマンで、これぞ甲南の紳士かと、眩しく思ったことでした。亡くなられた直後に、大森雅宏君が「鷺尾さんを偲んで」と題して山岳会のHPの掲示板に寄稿していますが、雰囲気を実によく描写されています(本号にも転載あり)。

また、何かの会合で小川アヒルさんが、戦前の甲南山岳部の多彩な人材を「山岳部員は、右から左まで、アウトローからジェントルマンまで実に幅広く、それでいて極めて仲が良かった」と話されたとき、そのジェントルマンの代表格は鷺尾さんだと思ったものです。当時の山岳部員はほとんど綽名で呼び合っていた中で、鷺尾さんには綽名がなく、上級生さえ「ワシオさん」と呼んでおられたとのことでした。

高校時代の山行として特筆すべきは、高校2年、昭和14年3月の穂高・白出沢でしょうか。甲

南として念願の積雪期のジャンダルムの飛騨尾根を伊藤文三さん、福井グリーンさんが登られた時(東京農大、早稲田に次ぐ第3登)に、喜多豊治さんとワシオさんは、そのサポートのために白出沢下部の幕営地から、西穂の稜線に至る支尾根のひとつ(当時の呼称「天狗尾根」)を経由して、ジャンダルムの頂上で飛騨尾根パーティと合流、奥穂経由、その日の夜遅くにBCに戻っておられます。鷺尾さんが「春の白出沢生活」と題して『部内雑誌』第X号(1940)(『時報』40周年記念号(1965)に転載あり)執筆されました。

鷺尾さんの珍しい山行記録としては、大学時代に高校の山仲間7名と行かれた北千島：パラムシル・シュムス両島への調査行があります。昭和15年7月、日米開戦の一年前のこの時期に、隠し持ったカメラを警察に見つかりそうになったりしながらも、後にソ連軍との激戦の地となった千島列島最北端の島に辿り着き、貴重な短い夏を過ごされた紀行はフクデンさんが面白おかしく執筆されています。

香月慶太初代会長の後の10年間、会長を務められましたが、香月さん同様、甲南山岳会への愛着はひと一倍で、『山嶽寮』への寄稿も多く、会長在任中の10年間は毎年『六甲山麓からの便り』と題して、心のこもった文章を頂きました。東京の山岳会の会合にも毎年ご出席いただき、山岳部、山岳会、そして学園の近況を独特の律儀なスピーチでお伝え下さいましたことなど、懐かしく思い出しております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(2020年9月 横浜にて)



北千島・後列左端が鷺尾さん

ホームページに寄せられたコメント

鷺尾さんを偲んで

大森雅宏

8月20日

鷺尾さんのこと。端正なお姿を偲んで、思い出すことをいくつか。

山嶽寮の原稿、六甲山麓からの便り、はいつも縦書き原稿用紙に水色のインク。手書きの原稿は手間がかかるだろうからと、6月末か7月の初めにお寄せ下さいました。暖かな感じの丸めの文字、ちょっと癖があつて、これは「と」かな「を」かなと考えながらパソコンに向かう時間は楽しい時間でした。

山岳会のことでお願い事があつて、住吉の白いマンションに電話を差し上げたとき。突然でしたのに、じゃあいらっしゃいと迎えてくださいました。カッターシャツは第一ボタンまできっちり。お茶とお菓子を出された奥様が、鷺尾さんの横に控えられ一緒に対応して下さいたのが思い出されます。

ボタンきっちりのこともう一つ。香月さんがやっぱりレリーフを見たいとおっしゃったとき、鷺尾さんと利一さん現役阿部君たちと一緒したことがあります。あの時の高座の滝の写真もたしかシャツのボタンは全部かけておいでだったような。

仕事の途中、大和銀行の本店近くでバッタリお会いしたことが。「これから綿業倶楽部で集まりがあつてね」とにこやかでした。平成4・5年頃、70歳少しの鷺尾さん、業界のサロンにお出かけかと拝見いたしました。

今頃でしたらなんでもメールですが、昔は電話。私の娘によると「お父さん、香月さんと鷺尾さんからの電話の時は、背中伸ばしてしゃべってるからすぐわかるワ」。そりやそうでしょう。

折に触れハガキもいただきました。ちょっと懐かしいの3枚を手にながらご冥福をお祈りいたします。

(ハガキの画像は誌面の都合で割愛しました 編集)

訃報 池田喜久夫氏のこと

ホームページ掲示板より引用しました

訃報

井上知三

3月20日

事務担当よりお知らせいたします。

池田 喜久夫 様【旧 21 理】がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

総会の返信葉書にて姪の塩野 典子様から下記のお知らせをいただきました。

「叔父の池田 喜久夫は今年1月26日に92歳で永眠いたしました。

生前中のご厚誼に深く感謝申し上げます」 塩野 典子

訃報・池田喜久夫氏のこと

越田和男

3月21日

もう覚えている人は少ないかも知れない。昭和40～50年代にかけて、梅田の北野劇場の裏の通りに「トリスバー」という小さなスタンドバーがあり、池田さんはそこの店長兼バーテンダーとして、カウンターで独りシェーカーを振っておられた。広瀬のボンと幾度となくお邪魔した覚えがあり、お会いすればホッとする温顔を懐かしく想い出しています。今は亡き小川守正さんや河崎厚二さんもご常連だった。女性客が多かったような記憶も。

池田さんは、甲南山岳部に多かった兄弟部員のお一人で、実兄が塩野良之助さん(故人・昭和18年旧制理科)。兄上同様、甲南から阪大理学部に進まれ、ちょうど戦争中に甲南高校山岳部に在籍されていた。米ピッツバーグ大学の教授をされていた兄上の消息を伺ったりしたが、今にして思えば、部報にもなかった戦時中の山岳部のことなど、もっとお聞きしておけばよかったのだが、転勤で横浜住まいになってからはお会いすることもなく、その機会を逸してしまったのが残念です。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

池田喜久夫さんの事

廣瀬健三

3月26日

このお店:トリスバーによく行きました。越田コシと一番よく行ったですが、河崎オタマ先輩とも行きました。乗鞍岳スキーの事を楽しげに語っておられたです。大阪財界を代表する塩野一族の方が、よくやられていると感心したのですが、ご本人は楽しげでした。ご冥福を祈ります。

アメさんの思い出

石原浩二（昭44理）

アメさんと出会った当初はアメさんに山行計画、ものの進め方、考え方等のアドバイスは週一の芦屋駅前のアメさんハウスで、お聞きしていました。

初めて山にご一緒させてもらったのは3年生の秋、塩崎さんと前穂Dフェイス登攀後、前穂、奥穂、白出を経て、新穂高温泉で泊まり、翌朝、アメさんと待ち合わせ、好天の中、ぶらぶら鏡平まで登り、山小屋の軒先で1泊しました。紅葉、夕焼け、満天の夜空、朝焼け赤く輝く穂高、槍を満喫しました。その時、早く歩く先輩だなーと思いました。冬、中崎尾根、槍の合宿後、北川と一緒に松本駅ベンチで寝て、翌朝、アメさん、國分さんに車で拾ってもらい、大町に向かいました。爺から鹿島槍の計画で、入山しました。入山時から降雪は激しく、2000m付近でテント泊、夜中、何回か除雪をしました。翌日、降雪の中出発、ジャンクションを通過後、視界もほとんどない吹雪の中、下り始めたので、爺の頂上は過ぎたと思う、この状態では鹿島まで行けないので、下山しようと言話をし、下山することになりました。下山中も、帰路の道路も雪が降り続き、高速道路も閉鎖、地道を芦屋まで帰ってきました。アメさん宅で泊めさせてもらいました。年末だったので、奥様は実家に帰られており、2人で、自炊したのですが、アメさんに「お腹のどこかに穴が空いている気がする。いくら食べても満腹にならない」と話をし、家にあった食べ物をすべて食べ、奥様が帰ってきて食品がなにもないので、ビックされたそうです。翌年、冬山合宿、烏帽子から槍までの裏銀縦走後、北川、南野と昨

年と同じ、爺、鹿島槍に向かいました。2000m付近テント泊後、快晴の中、鹿島槍往復をしました。爺、通過時、昨年やはり爺の頂上まで来ていたことを確認しました。その日のうちに下山、翌日、中房温泉でアメさんと待ち合わせしていたので、冬のバス終点から2時間くらい歩き、中房温泉で宿泊しました。翌早朝、アメさん達と、会えないので、先に登ったのだらうと思い、一人で、燕を目指しました。追いつこうと思って、休憩もしないで、登りましたが、燕小屋まで会えず。燕、往復して少し待ちましたが、来ないので、下山することにしました。合戦小屋まで下山したら、アメさん、山本たちが上がってきてやっと会えました。再度一緒に燕に登り、時間があつたので、大天井を往復して、下山しました。2月下旬、学生登山最後の春山合宿に向かいました。双子岩をベースに、杓子周辺の計画でした。行動初日、杓子まで全員で登り、幸先の良いスタートでしたが、翌日から11日間吹雪かれ沈殿。私は就職があるので、止む無く、伊藤と下山しました。信濃四ツ谷(今の白馬)から電車に乗り、帰路につきましたが、大町を過ぎると、たまたまなくなって、伊藤には一人で帰ってもらい、一人降車し引き返しました。翌日アメさんが来ることを聞いていたので、細野で会い、双子岩まで行くことにしました。雪は降っていましたが、視界は良かった。途中早稲田の方が2人、一緒に行きたいとのことで、膝くらいのラッセルをしながら、双子岩に向かいました。双子岩まで行くと、本体パーティーは杓子に向かって登っていたので、大声をかけ手を振ってお互いを確認しました。早稲田の方も追

いかけ杓子に登るので、別れ、アメさんと下山する頃は快晴になっていました。下山途中、猿倉台地を見下ろせる小高いところで休憩しているとき、右稜線の上に見えていた白馬大雪渓が落ちるのが見えた途端、目の前の、長走沢がクラックと同時に大規模な雪崩が発生しました。3月18日12:30頃です。切れて、落ちて、止まり、雪煙をかぶるまで、映画のシーンのような感覚でした。初めてのすごい経験でした。声も出ません。こんな雪崩に遭遇すれば、とても逃げることはできません。視界が効くようになって、急いで、本体パーティーの尾根を見ると、ジャンクションから下が落ちていて、上のメンバーも見えました。早稲田の方も、そこまで、登っていたので、無事でした。後で聞いたら、気温が下がるまでそのまま下るのを待っていたそうです。又、尾根で見えなかったのですが、杓子沢も落ちたとの事でした。歩き始めようとしたのですが、膝がガクガクで、足が前に出ません。やっと自分に右足、左足と声をかけ、前に進みました。台地を走る感じで、猿倉小屋まで来て、ホッとしました。二股までわずかと思って歩き始めましたが、降雪後のラッセルがあり、時間がかかりました。朝食後何も食べて無く、お腹ペコペコ。仕方なくツララをかじりながら二股の発電所までやっと降りてきて、発電所の方に、なにか食べ物を分けてもらえませんかとお願ひしたら、インスタントラーメンを作ってくれました。極上のラーメンでした。お金を受け取ってくれないので、アメさんがラーメン鉢の下に2000円おいてお礼を言って、細野に歩き始めたら、追いかけてきて、こんなお金はもらえませんかと言われましたが、1000円だけ受け取ってもらいました。細野まで歩いていると、なぜか横山さんと出会い、アメさんが「横山何か食べ物ないとか」と言って、チョコレートを出してもらって、

二人で食べました。あの轟音とともに学生登山は終わりました。卒業後、数年は山に登りましたが、その後、山に登ることは無く、15年くらい経った折、アメさんから折立、太郎平、雲の平でワインのお誘いがありました。村上さんと3人で入山。初日は快晴でした。太郎平小屋の前で、薬師を見ながらビールを飲み、かつての山にすることが嬉しく、満足感いっぱいでした。翌日から、台風接近、雨のなか、雲の平、三俣蓮華、新穂高温泉まで歩きました。その後、越百山、荒島岳、大山、立山他ご一緒しました。それから時が経ち、飯田さん主催の雪見会に、行くようになりました。初めてゴンドラ、リフトで最上部の梅の森行った折、正面にあの長走沢が見えます。あのときの劇的な思い出が蘇りました。当時は大変な事でしたが、懐かしい思い出です。

人は不公平ですが、運、不運があります。私はかなり強運だと自分では思っています。困ったときも、必ず解決があるし、結果的に上手くいきます。山岳部に入って多くの方々と知り合い、感謝しています。たった4年間でその後の自分の人生の中で、こんなに大きな存在になるとは思っていませんでした。アメさんと出会った頃から、今も、アメさんが周りにいる気がします。一昨年、雨宮山荘にお世話になったとき、アメさんと買い物に行った車の中で「私は強運と思っている、その中で一番はアメさんと出会えたことです」と言いました。アメさんはありがとうと言われていました。先日アメさんの銘板を取り付けに井上、松下と同行させてもらいました。銘板の裏に私のメッセージを書き、取り付けました。今はもう奥様と再会されて、仲良くタバコをスパスパ吸っているかなと思っています。

ホームページに寄せられたコメント

雨宮宏光さんの訃報に接して

南井英弘（関学山岳会）

1月11日

雨宮さんの訃報に接し驚くと共に深い悲しみに包まれています。

雨宮さんとは1998年カラコルムにご一緒させていただいた時からの付き合い、その後毎年「雪見会」で華麗な省カスキー術を伝授していただきました。飲み込みの悪い劣等生で手を焼いておられたことでしょうか吹雪の中でもしっかりと教えて下さったことに感謝！ 国内外の登山史や最新登山情報に詳しく昔の話や現在の新鮮な話をお聞きするのが楽しみでした。ここ2～3年雪見会に参加されず気になっていました。飯田さんから雪見会に参加歓迎のメールが届き、雨さんが参加されるか気になり雨さんに電話しようとした矢先に訃報通知を受け取った。私はKGACですが1958年同年の卒業、甲南に入学した小学校仲間の事や、戦中戦後の話など共通した話題も多くアルプスやヒマラヤの登山など抜群の記憶力に何時も敬服していました。雨さんの魂が安らかに眠られることをお祈りしています。

さよなら雨さん

越田和男

1月11日

想えばその昔。雨さん大学一年生、小生高校一年生、ハワイアンバンドの先輩に紹介されて、芦屋大原町のお宅に、ギターを借りに恐る恐る伺った時のこと。ギターを持って現れた雨さんは、緊張気味の小生にウクレレをひょいと渡して、いきなり、ほなやろかと、ギターかき鳴らして歌いだした。ダジャレと冗談を続発、何とも型破りな先輩との初対面だった。後に、山仲間に入れていただき、以来60数年ご厚誼にあずかった。

山の先輩に収まらず、人生の先輩として数々の局面で的確なご助言を受けてきたこと、数えきれない。いつもユーモアに富みユニーク、笑いながら核心部にさらりと触れる一方、肝心なことはちゃんと文章にも残しておられる。学生だったころ、たしか遭難事故の当事者となられた直後のこと、雑誌『岳人』に寄稿された「大学山岳部の問題点」などは当時評判となりましたね。

今、速読の雨さんから勧められた本の数々や、晩年に度々お邪魔させて頂いた、伊那松川の雨宮山荘での楽しかった談笑の日々を思い出して、涙ぐんでおります。掛け替えのない先輩でした。雨さん有難うございました。どうか安らかにお休み下さい。さよなら、さよなら、さよなら。

雨宮さんの御帰天

福田信三

1月12日

雨宮さんの訃報に驚いています。個人的なお付き合いは殆どありませんでしたが、総会などでお会いした時、物静かなスマイルを浮かべて、“福田くん……”とお声をかけていただいたことを思い出します。心よりご冥福をお祈りいたします。

ありがとうございました。雨宮さん

南里章二

1月12日

本日4、5日ぶりに掲示板を見て仰天しました。しばらく前に芦屋で偶然雨宮さんお目にかかったのが最後でした。住まいが近いのでよく犬の散歩などの途中に出会い、公園などでお話しさせていただきました。

雨宮さんには77年のヒマラヤ登山では準備その他に全面的なバックアップをいただき、また10数年前には私の本の出版の時、京都のナカニシヤ出版まで御同行いただき、ナカニシヤのご主人に豊富な山の知識を披露されたおかげで即座に出版の契約にこぎつけることが出来ました。前回お会いしたときに「南里早く次の本を出せよ。」と言われたのが最後です。雨宮さんがお元気なうちに何とか思っていました、力足らずで実現できず、申し訳なく思っています。心よりご冥福をお祈りいたします。雨宮さん、どうかやすらかに眠りください。

ありがとうございました。

渋谷一正

1月13日

掲示板を見てびっくりしました。井上先輩に電話でお話したのですが涙が止まりませんでした。とにかく色々お世話になったのです。大学の頃は森さんに続いてヤマト製帽の宿直室に住まわせていただきました。当時の部員とは毎晩お酒を飲んで山岳部の宴会場のようでした。其の後、大原町のお宅(倉庫として使用)に住んでいました。ヒマラヤへはそのお宅から出かけました。無職で結婚するとき、嫁の父親に仲人を立てるように言われて困ったのですが雨宮さんをお願いして「任せとけ」と奥さん共々お世話になりました。結婚式の前日の夜、俺の歌をプレゼントしてやると言われソファの上で「マイウェー」歌ってくださった姿が目に残ります。ありがとうございました。

皆様へ

雨宮 圭

1月15日

父への温かいお言葉ありがとうございます。生前、本当に長い年月にわたり、お付き合いいただきましたことも重ねてありがとうございます。同じく中学から甲南に行った私に、父は何度も「友達は大事にしろ」と言っていました。昨年11月に病が重くなり、自宅で1か月ほど、病院で2週間ほど過ごしました。いなくなってしまったことは寂しいのですが、家族と長い時間を共にでき、医療のおかげもあって、痛みも苦しみも少なく安らかに眠ることができました。生前、父から伊那松川の山荘について、できるだけ長く維持してほしいと言われております。私も5年ほど前から登山をするようになったため、ときどき訪れています。父親譲り？の凝り性で、ほぼ毎週、5年で220回ほど登山しましたが、信州へは年に10回も行けておりません。山岳部の皆様には今後も伊那松川の山荘を利用いただけたら父も喜びます。事務局(井上知三様)の方で鍵を管理しますので、問い合わせいただけたらと思います。私と井上さんはいつでも連絡取り合える状況にあります。

また、病が重くなった際に、山に関する本を捨ててくれと父から再三言われていました。あまりにしつこいので、捨てたと話しましたが、実は1冊も捨ててません。自宅と会社と山荘にあります。私でも読める本もありますが、私には難し過ぎるものもたくさんあります。家が片付き次第に山の本をまとめますので、南里先生に相談したいと思っています。その際はよろしくお願いします。今後ともよろしくお願いします。

平井吉夫殿

あなたのお蔭で山奥のチトラルで本式正餐ディナー！

南 井 英 弘（関学山岳会）

日本山岳会図書委員会の山行や仲間たちとの山行にも良くご一緒し、センキチどんの信州の別荘にも何度か招いていただいた。

パキスタンの3つの大山脈にご一緒しましたね。ヒマラヤの最西端には1,997年夏、ナンガパルバット山塊のブルダール嶺 5,602m を目指した。君はブルダール峠 5,2500m に達し、峠からヌン・クンらしい大きなヒマラヤの峻峰を眺めて「俺はここで満足だ！」と。98年夏はカラコルム・バルトロ氷河入り口のスコロ・ラ東峰(5,670m)に出かけた。私たちが青氷の北面に取り付いているのをBCから終始見守って下さり安心して登攀を続けましたが手に負えませんでしたね。

2,000年はヒンズークシュのディル・ゴル・ゾム(6,778m)にもご一緒した。同行したリエゾン・オフィサーはパキスタン陸軍の真面目な Captain Nazal Abbas でした。1か月後に軍隊で Brigadier への昇格試験が有るとのこと。世界各地の近代戦争史を勉強しており、日本の戦争史など私より詳しかった。その彼に平井さんはキャラバン中もテントサイトでも真剣に取り組み教えていましたね。Captain から平井さんは”Base Camp Commander”の愛称で親しく呼ばれていたことがつい先日のように思い出されます。Captain は我々が登頂できたことを非常に喜び、彼から全く想像できない御褒美を授かった。

チトラルに下山した翌日、キャラバン中は常に我々の目の届く範囲にいたキャプテンが数時間、姿をくらました。ホテルに帰り着くと「明日は私が皆さんを招待する」と誇らしげに言いました。

その筈だ。”Chitral Scouts Headquarter Mess”パキスタン陸軍・チトラル指令本部の将校クラブでの正餐ディナーをキャプテンの身分ながらアレンジして呉れたのだ。大きな庭、綺麗な建物、凄い室内と装飾品、雛壇には現地を訪問したダイアナ妃など旧宗主国・英国皇族の写真が額に入れられ飾られていた。

ディナーはボーイやウエイターも正装している。我々は山で汚れた服装で出席し、英国式に教育された彼らには失礼なマナーもあつただろう。個人では絶対にできないこの様な素晴らしいチャンスを創って呉れたのは平井さんのお蔭です。遠征中、とき所かまわず Captain に日本のみならず世界の近代戦争史についてアドバイスしていたご厚意に感謝の気持ちを込めて、自分自身の分際を忘れて将校クラブに交渉して呉れた賜物でしょう。キャプテンと共に平井さんに感謝しています。

安らかにお眠りあれ！

追憶 平井吉夫君のこと

越田和男 (昭36理)

日本山岳会 月報『山』

山 892-2019・9・20



平井吉夫 (ひらい・よしお)
会員番号8312

翻訳家 (ドイツ語)、編集者。ドイツ語の翻訳書は100冊を超える。山岳書ではR・メスナー著『裸の山』(山と溪谷社)がある。

1938年生まれ。甲南中学・高校 (山岳部に所属)を経て1964年、早稲田大学文学部卒業。出版社勤務の後、1971～76年 チェコ、オーストリアに留学 (ヨーロッパ戦史研究)。

1977年 日本山岳会入会
1983～86年 日本山岳会理事のほか「山日記」編集代表、図書委員会委員長を歴任

2019年5月24日逝去、享年80

今年に入り、図書委員長の三好まさきさんが亡くなり、彼女を偲ぶ会がついに先ごろ催された。その発起人に名を連ねていた前委員長の平井吉夫君 (以下、敬称略)が、その会に出席することも叶わず、12年に及ぶ闘病の末、5月に亡くなった。平井と私は、神戸の甲南中学・高校以来70年近くの長い付き合いだったので、ここに追悼の稿を綴らせていただく。

追憶 平井吉夫君のこと

越田和男



彼が「大腸癌らしい」と打ち明けたのは、初冬の伊那谷のこと。彼の悪い予感の中、緊急入院だと言った電話してきたのは、帰京後間もなくで、これが長い闘病の始まりだった。8時間に及ぶ最初の手術で、さすがの彼もげっそり痩せたが、以後、諸々の抗癌治療で入院を繰り返しながらも、実に病人らしからぬ振る舞いで酒も煙草も人以上、皆を驚かせた。

そして3年前、今度は肺がんが見つかり片肺を全摘後、残った肺にも2ヶ所に癌。さすがに闘病の階段もきついとぼやき出したが、それでも図書委員会などには顔を出し、二次会まで付き合っていたし、自宅に見舞ったときも、鼻に酸素チューブを突っ込みながらも奥さんの手料理でよく飲み、愉快そうに語らった。亡くなる前月のことだ。

山登りでは彼は早熟だった。中学入学直後からの山岳部員で、芦屋のロックガーデンでみっちり基礎訓練を受けて、穂高の淵沢合宿に臨み、前穂・北尾根、ジャンタルム・飛騨尾根、北穂・滝谷の第2尾根などは中学2年で、中3になると、積雪期の不帰第1峰尾根に挑戦した。高校時代も積雪期はもっぱら後立山に通い詰っていた。部活動のかたわら単独行も好み、槍・穂高縦走や鶴のハツ峰なども独りでこなし、高校2年時には兵庫県代表に選ばれて、神奈川 (丹沢) 団体に参加した。

ホームページに寄せられたコメント

平井吉夫さんの訃報に接し

南井英弘（関学山岳会） 5月27日

4月2日、越田さん・JAC 田村さんと共に平井さん宅を訪問し、昔話に花が咲いた。
当日、センキチどんは美味しそうにワインを傾けながら全く病人を感じさせない元気さだった。
まだまだ再会のチャンスがあると思っていたのに残念でならない。
平井さんは山仲間で本年1月に亡くなられた(現役の)JAC 図書委員会委員長の追悼会の
発起人でもあり、ご本人としてもこんなに早くお迎えが来るとは思っておられなかったと察し
ています。
平井センキチさまのご冥福をお祈りするばかりです。

平井吉夫 センキチ

廣瀬健三

5月29日

越田コシからのメールで彼の逝去を知った。ついに来るべきものが来たと思った。長い間の
病気との付き合い、大変やったと思う。彼は甲南中学一年から山岳部に入っていました。小生
は二年生からでした。思い出はつきず、山岳寮に投稿して、仙吉を偲ぶつもりです。令和元
年5月29日

故平井吉夫君葬儀

越田和男

6月 1日

一昨日、昨日と通夜、告別式に参列してきました。彼の活動、交遊の広さ、多彩さを感じるご
葬儀でした。山関係は日本山岳会の図書委員を中心に多数、甲南山岳会からは米山、飯
田、水渡と小生が参列会葬いたしました。
昨今、密葬や家族葬が増えてますが、平井家はきちっとしたご葬儀で、異色だったのは、出
棺の前に30～40分ほど、偲ぶ会的な段取りがあり、多数の方々が弔辞というよりは少し砕け
た形のスピーチを準備披露されたことでした。故人が晩年に尽力した活動のひとつで、監事
でもあった「福島原発行動隊」を始めとして、「9条改憲阻止の会」「全日本合気道連盟」・・・
出版界の人たち、ANPO 同窓会、ニッポン・シャンソン協会、ウイーン留学時代の仲間たちな
どなど。
もちろん甲南時代の山岳部での活躍にも司会者から言及されました(実はスピーチは辞退さ
せてもらいましたが)。以上ご報告申し上げます。

鵜木君の想いで

森 本 全 彦 (昭39法)

鵜木君が亡くなったと聞き、闘病の間、本人もしんどかったのではと……。

岡山操山高校から甲南にやって来た。(1959年) その動機が変わっていた。山の本を読んでいた甲南の名前がよく出てきて、それではと受験したとのこと。

そんな彼は太柄で山ヤの姿をしていた。勉学を忘れ山で過ごす時間が多く6年間に在籍した変わり者であった。

現役3年夏山分散合宿で、南アルプス全山縦走を14日間で完遂したのはさすがだと思った。自分でも満足した証として3人の子供に光・、仙・、聖・と名をつけている。

また話上手で、独特の岡山弁で部員の笑いを独り占めしていた。年が変わって又同じことを言ったりして”それはもう聞いた”と野次られたりしていたものだ。

彼と私は同期だったがよくケンカをした。特に現役3年生の時はひどかった。現役3年生がリーダー会を構成していたが、彼はリーダー会に属していなかった所為の意見対立であった。私の度量なさが原因であったと思っている。その償いとして彼が66歳に認知症を患った時、少しでも手助け出来たらとできる限り面会に行った。

次女聖子さんの献身的介護も報われず、元気な声も聞かれずじまいになって寂しい別れとなってしまう。

二人だけの山登りはほとんどしなかったと思っている。

横山君の散骨に行き塩崎君と新室堂乗越で別れ鵜木君と二人で剱岳～早月尾根～馬場島歩いたり、ポンさんと3人で四国赤石山系に行き裸足で登ってくるポンさんを見て大笑いしたこともあった。晩年ふらっと大津に来て、二人で西堀栄三郎記念館へ行き、明るる日比良武奈ヶ嶽を登ったこと等思い出す。

今頃 ガチャさん、大関さん、雨さん等とワイワイガヤガヤ賑やかなことでしょう。

……お子さん等の粋な計らいで別れた奥さんのお墓に……

鶴木さんが亡くなられた

水 渡 清 夫 (昭40 営)

鶴木さんが亡くなられた

ながい闘病生活、お疲れ様でした。

何度もお見舞いに行っておられたカンさん(森本さん)に同行して施設に鶴木さんを訪ねたことがあります。お会いした時「オー、水渡かー、久しぶりのような気がするなあ・・・」と、あの暖かい少しハスキーな声と笑顔で迎えていただいたことを懐かしく思い出します。

現役時代は

山岳部に入ってからすぐの五月、劔岳西面での新人歓迎合宿で数名のパーティーで雪渓をつめ稜線(三ノ窓コル?・・・だったのかははっきりしない)に立って一休みしたあと、鶴木リーダーは遥か遠くに霞む峰々を指差し山の名前を熱心に教えてくれていた。しかし山慣れしていない自分にはどれも区別がつかず ポンヤリ眺めているばかり。あの時は「頼りないやつヤナ・・・」と思われただろうと今でも思っています。

山の経験なく山岳部に入った自分にとって鶴木さん(当時三年)の存在感は大きく、威圧感があってなかなか馴染めないまま現役時代を過ごしたようにおもいます。

卒業後は

若い頃岡山へ転勤。初日から岡山を離れるまで鶴木さんに公私、昼夜の区別なく面倒をみてもらい大変お世話になりました。特に岡山の表町界限、チロリン村飲み屋街など安くて美味しい店をたくさん。おかげで楽しく充実した夜の岡山生活を楽しめたと思っています。

この岡山時代に優しく後輩おもしろい人柄にふれ、現役時代と違って親しく良い関係を持てたことは幸運なことだったと思っています。

頭の回転の早い鶴木さんから笑顔でからかわれたり、笑い話の種にされたりするのも嬉しく思える間柄になっていました。

こんなこともありました

東京で勤務をしていたとき岡山の鶴木さんから「お前も還暦になったらしいのう」と電話。愉快的話に笑わせられたりした後「そうじゃ、還暦祝いの歌、唄ったるわ」で(童謡・船頭さん)「～村の渡しの船頭さんは、今年六十のお爺さん～」と唄ってくれました。受話器から聴こえるあの少しハスキーで暖かい声を懐かしく思い出されます。

鶴木さん本当にありがとうございました。

ホームページに寄せられたコメント

鶴木さん、有難うございました。

柏 敏明

3月 8日

鶴木さんが亡くなられたとのお知らせがありました。晩年は病を得られて、寂しい限りでしたが、お元気な時は色々のご指導を賜り、お世話になりました。思い出も一杯です。娘さんの聖子様も良くご面倒をみられ、カンさんも最後まで見守って頂きました。今は、ただ、ただ、感謝とご冥福をお祈り申し上げますのみです。鶴木さん、安らかに休息ください。

鶴木さんのこと

大森雅宏

3月 8日

大山がお好きでした。年賀状をお出ししたら、松の内に「賀状ありがとう。正月は例年の如く大山に登ってきました」とはがきをいただくことが何度もありました。療養生活に入られてからの年賀状、お出ししたらかえってお嬢さんのお手を煩わせるかとも思いながら何年にもなりました。今年も「病院で頑張っております」の添え書きの年賀状をいただきました。大山、私自身も昭和54年の暮れにお連れいただいたことがあります。岡山から鳥取へ走った夜中のシビックで伺ったお話、いくつか覚えています。甲南山岳部の「洋」さんお三方のこと（鶴木 洋さん・井本 洋さん・横山 洋さん）。ダイナマイトにまつわるあれこれ（発破の順番・真ん中が一番、時間差で回りに）。子供さんとの卓球のお話なんかもありました。山のほうは大山寺から登り始めて頂上経由、左回りでラウンド、やせたリッジでちょっと緊張のアイゼンワークでした。

お元気なころは4月のロックガーデンによくお見えでした。

「オーモリ、元気にしとるんか」「そりゃあ何よりじゃ」とあの大きなお声でした。

ご冥福をお祈りいたします。

— 会員短信 —

令和元年 秋

名誉会員

平井 一正 (名誉会員)

息切れして今は登山もできません。10月には88歳になります。

旧制高校

赤松二郎 (旧 14 理)

主人は徒歩10分の特養に入居して2年余り、年末には100歳の誕生日を迎えます。山男の主人のおかげで日本の3000m 級の山々すべてに登らせてもらったり、主人の母を見送ってからは、ネパールやヨーロッパアルプスへの気ままなトレッキングの旅などの思い出は感謝の気持ちと共に私の宝物になっています。妻 恵美子

福井 亨 (旧24理)

92才になり、外出もままならず、したがって、今後連絡も不要です。宜しく願いいたします。諸兄に宜しくお伝え下さい。

新制高校

北方龍一 (新高S30)

神戸市初の小規模水力発電に取り組んで8年になります。やっと諸許認可のめどが立ちました。20kw で総工費¥60,000,000 です。来年末の試運転になると思われます。高齢のため失礼いたします。皆様に宜しく。

竹原佑爾 (新高S33)

元気にして居ります。皆様に宜しくお伝えください。

山城國暉 (新高S36)

盛会でありますように。

大村謙治 (新高S41)

皆様のご健勝を祈念しております。小生は元気に現役を続けています。次回、機会があれば是非参加させてください。

福田裕久 (新高S45)

孫が3人になり、週 1 回程度我が家に来てにぎやかに暮らしております。

松下弘幸 (新高S54)

皆様に宜しくお伝え下さい。

白川浩平 (新高H2)

今年の春に散歩のついでに甲南バットレスを見に行きました。木々が生い茂り、岩場が見回せない程になっておりました。訪れる人も少なく“忘れられた岩場”になっており、寂しい気持ちになりました。

大 学

砂川彰雄 (大32経)

庭でコロナ、一か月入院しました。チョット、遠出はまだ無理なので残念ながら欠席いたします。

宮本 侑 (大32経)

いつもご案内ありがとうございます。残念ながら令和元年5月7日 侑 病院で死去いたしました。永年のご厚情感謝いたします。皆様に宜しくお伝え下さいませ。宮本内

鈴木頼正 (大33経)

猛暑も過ぎ残暑になりました。当日は年忌法要と重なり欠席することになりました。ご盛会をお祈りします。

伊藤久三郎 (大36経)

毎日病院通いを続けております。皆様に宜しくお伝え下さい。

越田和男 (大36理)

夏バテ気味なれど、何とかやっています。セン
キチが死んで寂しいです。

田中 孜 (大36経)

一昨年のくも膜下出血、昨年の股関節手術は毎
日のリハビリでやっと良くなってきています。

藤安賢一 (大36経)

長期入院中のため。

飯田 進 (大38経)

朝起きてフツンのないコタツに足を入れ、座椅子
にもたれて昼までテレビを観ての毎日です。

二谷和成 (大38経)

今年の猛暑はなんとか乗り切りました。月一回ウ
ォーキングを心がけています。

武田雄三 (大39経)

元気に遊んでいます。

森本全彦 (大39法)

元気にやっております。昨年ゲレンデスキーを
買って奥伊吹、琵琶湖バレーに行ったりしており
ます。

村上与利一 (大39営)

当日、芸術文化センターで仕事あり、出前販売
です。80には次のステップに踏みだしたく準備
中です。

福田信三 (大39理)

AI だのブロックチェーンだのに押し流されない
よう奮闘しています。自動運転車の後はロボットシ
ェルパの出現かも知れません。そうなると、ロボピ
ンリックも？想像は止まりません。

伊丹徳行 (大40法)

毎日暑いですね。近況は平平凡凡の毎日です。
今年は台風が来ないことを願っています。楽しみ

にしています。

鶴木 洋 (大40文)

ずっと病院ですが頑張っています。

井本 洋 (大40理)

元気にやっています。

井上 徹 (大41営)

ご苦勞様です。先日、雄さんが立ち上げられた
LINE の“山岳会”から私の不注意の為、全員を追
い出す結果となり塩崎さんに怒られました。雄さ
んをはじめ皆様こころよりお詫び申し上げます。

柏 敏明 (大41経)

お蔭さまで、なんやかんやと忙しく過ごしてお
ります。集会の頃はおそらくシンガポールに行っ
ていると思いますので残念ながら欠席させていた
だきます。集会のご盛会をお祈りいたします。

塩崎将美 (大41経)

残念ながら出席できません。盛会をお祈りしま
す。

頼富信輔 (大43法)

ご連絡有難うございます。今回も残念ながら出
席できません。会の益々のご発展をお祈りしてい
ます。小生、現在は観光ガイドと軽登山の案内を
して毎日自然の中で過ごしています。やはり何よ
りも健康第一ですね!!

森岡宏光 (大43理)

先日、7/2～3 にかけて岐阜長良川温泉にて鶴
飼いを楽しんできました。S43 卒同期4名です。皆
さん現役で元気に働いています。私も停年 80 歳
まで頑張りたいと思っています。

電話番号変更

赤田正和 (大44理)

社有林で山歩きをしています。仕事以外ではないです。「右より」の運動忙しいです。毎日晒「宮城遥拝の会」「大東塾不二歌会」「一日会」「日の丸行進」などで休みなしです。皆様に宜しくお伝え下さい。

南里章二 (大45理)

ご案内有難うございます。いつも欠席で申し訳ありません。相変わらず、文化センター、大学の社会人講座などに走り回っています。

矢吹操 (大45理)

元気です。いまだに宮仕え。休業日は義母の介護。時間ができればジョギングですが今年は5月が猛暑。7月は週一回少し走りました。この8月はまた猛暑。朝夕、風が出て涼しいと感じた時はジョギングしています。

住所変わりました。

井上知三 (大48文)

今年の夏、友人に誘われて学生以来48年ぶりに、南アルプスに山歩きに行きました。バスと北沢峠の小屋を利用して、ポピュラーな仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳を二日に分けて歩きました。天候にも恵まれて楽しい山歩きと思っていましたが、最近、近郊の山歩きもせずトレーニング不足もあって、ヒーハー・ヒーハーの最悪の山歩きとなりました。今は反省・反省の夏山でした。

平井幹男 (大50文)

終活に入り、10月末で会社を閉めるため、最後の活動をしています。残念ながら集会には参加できそうにもありません。

村田信一 (大50経)

いつも有難うございます。教会行事の為、欠席します。7月下旬にスイスに13日間、同期の早川

君夫妻と家内の4人で周ってきました。ツェルマツト、グリンデルワルト、シャモニーいずれも好天続きで山と教会が素晴らしかったです。後退する氷河とレマン湖の澄んだ水を見て貴重な自然を残したいと願っています。

中澤章治 (大50文)

今年は当社の例祭から外れた日程ですがやはり、その前後で申し訳ありませんが行けそうもありません。皆様に宜しく。

高橋い子 (大50文)

いつもお世話になっております。家族数の変化に伴い、どんどん車を小さくしながらも、毎日、片道一時間、大阪の会社に通っております。いつまで続くやら……

大柳香代子 (大51法)

「歳をとってからでも登れる3000m 峰」として、取っておいた乗鞍岳、早くもそのカードを切ってしまいました。肩の小屋からの急登、最後の強風雨。頂上のお社に宮司さんがいらっしやりビックリ！ 檜、穂高、パッチリの眺望、雷鳥、花の終わったコマクサ群落、何も知らずに行った乗鞍岳、次回は黒岳へ。

松下哲夫 (大52理)

この夏は大峰の七面山を目指し、行きましたが暑さと荷物の多さに耐えきれず目的地に行けませんでした。季節を変えてまた、行ってみようと思っています。

大森雅宏 (大53文)

土曜日、職場行事があつて欠席します。

要 裕晶 (大55営)

いつもご案内有難うございます。盛会を祈念しております。さて、私事、今年12月で定年を迎

えます。ようやく大阪に戻ってきます。来年の総会で皆様とお会いするのを楽しみにしています。

住友健時 (大55法)

元気にしておりますが、帰国予定がありませんので、申し訳ありませんが欠席させていただきます。皆様に宜しくお伝えください。

山本恵昭 (大56理)

夏にフランスのシャモニーとスイスのツェルマツトを訪問しました。さすがにアウトドアスポーツの先進国、山の美しさもさることながら、その楽しみ方もスマートでした。良い刺激を受けて益々歩きが面白くなってきました。

川野幸彦 (大56理)

元気で過ごしております。四月から職種が変わり多忙で山には登っていません。仕事が一段落したらどこかに出掛けようかと思っています。皆様によりしくお伝えください。盛会を祈念しております。

西岡 進 (大57理)

定年退職を迎え、第2の人生をどうやってエンジョイするか？悩み多き日々を過ごしています。当日は仕事の為、欠席させていただきます。

西名俊英 (大61理)

ご案内ありがとうございます。先日、黒部峡谷トロッコ・アルペンルート・上高地を巡る、3日間の観光ツアーに行ってきました。久々に北アルプスを近くに見ることができ、昔を思い出しておりました。盛会をお祈りしています。

阿部康彦 (大H6法)

今年は仕事が立て込んでおり、山へは全く行けておりません。涼しくなったら、また、ボツボツ登りたいと思っています。

松成 健 (大H8文)

6年間の福島担当から、岩手、秋田の担当となり、ホテル暮らしから単身赴任となりました。登山の方は糖尿病と高尿酸血症の治療も兼ねて少しずつ登っております。G.W.は至仏山、夏休みは大朝日岳を登り、たまに自宅近くの焼石岳を登っています。

橋田豊彦 (大H12経)

いつも参加できず失礼しています。

谷 勇輝 (大H20理工)

結婚して2年間、東京・大阪間で別居婚しておりましたが今年6月から大阪で一緒に暮らしております。10月には第一子が生まれる予定です。山に行くには益々厳しい状況ですが、山へのモチベーション、時間作り、頑張りたいと思います。

令和2年 春

名誉会員

平井一正 (名誉会員)

米寿もすぎて、今は元気にはしていますが、いつも迎えがくるかわかりません。心臓にガタが来て、今は登山はできません。皆様のご健勝をお祈りいたします。

旧制高校

赤松二郎 (旧14理)

徒歩10分の特別養護老人ホームでお世話になっております。妻 恵美子

新制高校

北方龍一 (新高30)

私は相変わらずNPOで神戸市初の小水力発電所設置で4月より着工が決定しました。工期1年で

す。灘区水車新田字宮坂 20KWH

竹原佑爾 (新高33)

元気にして居ります。皆様もお元気で過ごし下さい。

丸山霽茂 (新高33)

甲南高校山岳部に所属していました。

瀧原 順 (新高42)

2019年の会費を払った形跡がないので2020年の会費と合わせて3月16日に8,000円をゆうちょ銀行の口座に振込みました。お手をかけますがよろしく願います。

葉田順治 (新高47)

残念ながら欠席させていただきます。皆様によりしくお伝え下さい。

大 学

砂川彰雄 (大32 経)

昨年暮れに足と腰を痛め杖を突いています。朝夕、リハビリに歩行訓練をしています。

鈴木頼正 (大33 経)

米寿まで一年余り、老いは忍び寄り物忘れがひどくなりました。今は元気です。山岳会総会には必ず出席します。よろしく願います。

越田和男 (大36 理)

登れない、下りがこわい、それでも「山見遊山」・出不精の後付け理由に「新型コロナ」・体調不全、それでも酒はうまい。

伊藤久三郎 (大36 経)

毎日岸和田の久米田病院のデイケアに通院しています。皆様によりしくお伝えください。

牧野 宏 (大36 経)

年末にウォーキング中に転倒し頭・顔をしたた

か打ち、硬膜下出血をしました。3月の手術でほぼ回復、気を付けながら歩いています。

二谷和成 (大38 経)

身体のあちこちにガタがきていますが、何とか元気にしています。もう山は無理です。

武田雄三 (大39 経)

元気にしておりますが、身近な方々が次々と亡くなってさみしい限り……

井本 洋 (大40 理)

元気にやっています。

伊丹徳行 (大40 法)

先日、小中学校のクラス会があり20数名の老人・老婆が集まりました。Yさんとは同じ幼稚園とわかっていたので同じテーブルで昔の事を話しているとK君がテーブルに来ました。しばらくして幼稚園の話になるとK君もS幼稚園の卒園生でした。残念ながら昭和60年に閉園になり公園になっています。K君は時々、山嶽寮に出てくる関学山岳部の小西啓右君です。

柏 敏明 (大41 経)

次々と親しい方が亡くなられたさみしい限りです。当日は娘のところに行く予定で残念ながら出席できません。ご盛会をお祈りします。昨年はオランダ・ベルギーの運河のクルージング、スイスアルプスを楽しんできました。末筆ながらいつも幹事様にお世話頂き御礼申しあげます。

井上 徹 (大41 営)

総会参加を予定していましたがウィルスが心配なので見送らせていただきます。あいかわらずゴルフ&ゴルフの生活です。昨今、ゴルフをしているのは、80才前後の後期高齢者が大半という状況です。人生最後の舞台で頑張っている仲間達が最後までワクワクしながらゴルフが楽しめるよう

なゴルフ競技システム gollympic【コルリンピック】を開
発し啓蒙・普及に取り組んでいます。

浪川純吉 (大42 営)

新型コロナウイルスにかからないために毎日テ
ニスに励んでいます。

頼富信輔 (大43 法)

いつもご案内ありがとうございます。今年も出席
できませんが今後共よろしく。小生、相変わらず
瀬戸内海の小島の鬼ヶ島で観光ガイドをしています。
軽登山のガイドも行っています。

國分廣昭 (大44 経)

元気ですがレリーフまでです。

赤田正和 (大44 理)

時節柄欠席です。会社としてマスクの購入 米
(備蓄)など対応しています。消毒液も購入したり
しています。出張も中止して三重・和歌山方面等
車で行くところのみ社有林に行っています。大変
です。

石原浩二 (大44 理)

役員の方々に感謝しています。年に一度は立
山に登る様にしています。

南里章二 (大45 理)

第3土曜日は毎年昼から私担当講座の予定が
入っていますので、1 時間ほど遅れて出席させて
いただきます。

矢吹 操 (大45 理)

新型コロナウイルスの話はもううんざり。でも“う
つらない！！うつさない！！”日常生活は特にこ
れといった変化無し。まだ雇ってくれている会社
に感謝・感謝。風邪もひかず元気です。

井上知三 (大48 文)

今年に入って雪見会のスキーと山歩きは松下さ

んと銘銀取付に二回のみ、そうこうしている間に
COVID-19・緊急事態、この先が心配です。マス
クのない笑顔が待ちどおしいです。

平井幹男 (大50 文)

昨年11月に会社を清算し残務整理も6月末に
は終了します。新型コロナウイルスの事もあり、今
は晴耕雨読の毎日です。夏位からそろそろ山に
も行こうかと思っています。

高橋 隼一 (大50 文)

いつもお世話になっております。大先輩の方々
のご逝去の報に接し心よりお悔やみ申し上げま
す。淋しい総会になっていくのが残念です。

中澤章浩 (大50 文)

昨年一年間は春に滋賀の山へ行ったりきりで、そ
の後は計画倒れとなりどこへも行けませんでした。
一度に気力も体力も後退してしまい今は立て直さ
ねばとあせっています。

村田信一 (大50 経)

いつも有難うございます。時節柄欠席させてい
ただきます。教会のミサもしばらくの間ありません。
皆様のご無事をお祈りしています十。

大柳香代子 (大51 法)

だんだんと、山&温泉の比重が急激に重く増
えて、山の軽いこと！未体験の東北の山々をゆっ
くり訪ねたいです。

松本好博 (大52 法)

ご案内ありがとうございます。両日ともに出席で
きません。新型コロナウイルスに負けないように
「毎日一歩一歩計画」を進めています。未曾有の
新型コロナウイルス。収束までやっかいです。頑
張りましょう。

松下哲夫 (大52 理)

新型コロナウイルス感染を気にしながらの電車通勤の毎日です。

大森雅宏 (大53文)

ご案内ありがとうございます。当たり前ですけど毎年毎年年齢が増えてきます。もうすぐ65歳。私が大学入学のころの香月さんの年齢になりました。元気なうちに片づけておくこと、そろそろ本気で取り組まないとなどと考えています。

住友健時 (大56法)

申し訳ございませんが、帰国予定がございませんので欠席させていただきます。元気に暮らしております。皆様によろしくお伝えください。

川野幸彦 (大56理)

新型コロナウイルスが流行っていますが、皆様いかがお過ごしですか。私は相変わらずです。仕事は、この二週間ほど在宅勤務です。新型コロナウイルス！大変です。一日も早い終息を祈るばかりです。5月の連休には、北アルプスに出掛けようと思います。盛会を祈念しております。皆様によろしくお伝えください。

西名俊英 (大61理)

ご案内ありがとうございます。返信遅れました。新型コロナウイルスが終息せず、在宅テレワークの日々が続いております。これがニューノーマルとなりオフィスも減らし働き方も変わっていくようです。

松山弘和 (大61理)

春は欠席いたしますが、秋は体調が良ければ参加いたします。

藤井琢也 (大H6経)

幹事役いつもありがとうございます。

阿部康彦 (大H6法)

一年、全く山から遠ざかっております。そろそろ再開したいと思っております。追伸:私が甲南大学山岳部に入部した時の山岳会会長が鷲尾大先輩でした。紳士的で穏やかなお人柄に甲南ボーイとは、この様な方の事を指すのだなあと、ちょっと憧れたのを思い出します。心よりご冥福申し上げます。

松成 健 (大H8文)

私の異動と娘の進学先が丁度福島県となり約7年住んだ仙台から福島に引越します。福島は6年ホテル暮らしで勤務しておりましたので新天地ではないですが、新たな気持ちでやって参ります。最近では新型コロナウイルス影響で3月初旬から自宅勤務になっており、髭も剃らず寝間着でパソコンに向かっていきます。まるでニートですね。

谷 勇輝 (大H20理工)

昨年10月に長男が生まれたため、私の生活環境が大きく変化しました。登山やクライミング・スキーetcの趣味はしばらく自粛しなければなりません。子供が成長すれば、また復帰したいと思いません。

ご遺族

本田依子様

いつも案内ありがとうございます。腰痛の為うかがえませんが自宅にて祈らせていただきます。

乾 恵美子様

いつも御連絡頂きありがとうございます。現在、新型コロナウイルスの感染が拡大しており、その頃の状況はわかりませんが、元気で行けるようでしたら、参加させて頂きたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

横山嘉壽子様

慰霊祭の案内ありがとうございました。今年は

孫の砂川親子が参加すると申ししておりましたが、昨今の事情を考え残念ですが欠席させていただきます。お亡くなりになられた皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平井和子様

ご案内ありがとうございました。残念ながら、とても山登りなど出来る体力もなく、失礼いたします。平井は、ここに自分の名前が刻まれることを心から期待し、常々自慢しておりました。おそらく誇らしく見守っていることでしょう。雨宮様も他界されたようで心からご冥福をお祈りいたします。9 月にお尋ねした時にはお元気そうで

した。

川上聖子様

鶴木 洋の娘です。この度はお世話になります。子供が長く歩けないので、主人、川上 貴久に代表して出席してもらいます。どうぞよろしくお願いいたします。

成川清彦様

お世話になりました。ありがとうございます。当日、よろしくお願い致します。

【鷺尾顕元会長 ご遺族】

一 報 告 一

秋 の 集 会

日 時 令和元年 10 月 19 日 (土) ～ 20 日 (日)

場 所 木曽文化公園内宿泊施設「駒王」(長野県木曽郡日義村)

次 第 10 月 19 日 受付 / 夕食・懇親会

10 月 20 日 朝食 / 記念撮影 / 部歌斉唱【山の歌】

出 席 越田和男(大 36 理) 二谷和成(大 38 経) 飯田 進(大 38 経) 武田雄三(大 39 経)
安井 正(大 40 経) 伊丹徳行(大 40 法) 柏 敏明(大 40 法) 浪川純吉(大 42 営)
國分廣昭(大 43 経) 石原浩二(大 44 理) 井上知三(大 48 文) 山本真博(大 48 理)
渋谷一正(大 51 営) 松下哲夫(大 52 理) 松山弘和(大 61 理) 米山悦朗(新高 29)
川村静治(新高 40)



令和2年度 山岳会行事について

新型コロナウイルス問題のため

山岳会総会 / 慰霊祭 / 秋の集会

は開催中止になりました

— ホームページから —

掲示板ダイジェスト 山行と集いを中心に

2019（平成31）年4月～2020（令和2）年3月

十年 山本恵昭 2019年 4月 9日

なんでそんな名前なのか分かりませんが、十年という山に登ってきました。国土地理院の地形図にも1039.3mという標高しか載っていません。戸倉スキー場近くの大森神社を出発して、林道を辿る。杉の植林地が自然林に変わったあたりで尾根に取り付き、後はひたすら尾根を辿っていく。4月に入って降った雪が所々まだ残っている。途中のブナ林はなかなか立派。新緑にはまだ早いが、唇のような木を見ついたり、目の前をシカが走り去ったりと、それなりに楽しむことができる。たどり着いた山頂は立派な標識があるが、杉に囲まれ展望もなく何の変哲もない。下山は、ヤマメ茶屋へ向けて急な踏み跡を下る。うどんでも食べようとヤマメ茶屋に行くが、もう廃業した様子。所々、標識がありましたが、道もほとんど踏まれておらず、静かな山でした。



保久良神社—金鳥山—トトヤ道

川村静治 4月13日

4/12、裏山ハイキングで名残の桜とミツバツツジを見て来ました。保久良神社から大阪湾の向こうに金剛山がくっきり見えていました。保久良山から魚屋道にかけて地元の人によって桜が多数植樹されており、10年くらいたてば見事になるのではないかと思います。それまで元気でいたいものです。魚屋道は最後甲南女子大に下りるのですが、普通った

カエル岩を通るルートは荒れており（道標には難路と）新しい尾根道を行います。



表丹沢・高松山 越田和男 4月14日

関東の里山歩きをしたいという柏を花見ハイクがてら案内した。表丹沢の高松山801mは、車を使って虫沢峠まで入れば、登り標準タイム45分で頂上に着くはず。屈強の後輩、柏、水渡の両君に前後サポートされ、2度の休憩含みで90分かけて頂上に立った。幸い、広々とした頂上からは、富士、愛鷹、箱根の山々、相模湾、伊豆大島など一望が楽しめ、赤ワインにコーンビーフとチーズのつまみで大満足でした。



ロックガーデン コシアブラ

山本恵昭 4月14日

13日土曜日、高座の滝から荒地山経由、横池でランチ、保久良神社へ下りました。川村さんと1日違いです。とても良い天気でした。最後は、桜守公園で笹部桜を肴に缶ビール！今年は暖冬で、県北の山は雪が本当に少なかったのですが、3月下旬から4月にかけて寒気が流れ込んで、また雪。お陰で、桜は長持ち。芦屋川も保久良神社も桜守公園も、まだ楽しめました。一方、コシアブラはまだ芽がかたいまま。慰霊祭までに食べ頃になるのは難しいかもしれません。

荒地山ナウ 山本恵昭 4月21日

高座の滝から2つ目のダムでキャンプして、今荒地山にいます。雲っていますが、時々晴れ間がのぞきます。コシアブラは開きかけですが、そこそこ採れました。

慰霊祭 松下哲夫 4月21日

本日も天気に恵まれ、慰霊祭を実施しました。参加メンバーは 國分さん(大43)、石原さん(大44)、南里さん(大45)、平井さん(会長 大50)、渋谷さん(大51)、大森さん(大53)、鳥井さん(旧姓村岸 大54)、山本さん(大56)、川村さん(新高40)、ご遺族 乾恵美子さん(乾卯兵衛さん新高37)の奥様、樋口湧太さん(香月慶太初代会長旧5)の曾孫様、河原崎裕子さん(小川守正さん旧17)のお子様。皆様ご参加有難う御座いました。

飯綱高原のミズバショウ

川村静治 5月3日

10連休に飯綱高原のミズバショウを見てきました。妙高、黒姫の南にあります。



スキー三昧 高天が原 山本恵昭 5月3日

せっかくの10連休。何処か普段行けないような所へ行ってみよう。ということで、山スキーで北アルプスど真ん中、高天が原温泉を目指すことに。天気が良ければ、以前沢登りで訪れた水晶岳カールや赤牛岳にも行ってみようと、6泊7日の計画。イワナも釣ろうと欲張りに釣り道具もザックに入れていたけれど、担いだザックの重さに耐えかねて車においていくことにした。当初の計画では、4月26日夜神戸発で27日から入山予定であったが、仕事が遅くなったのと変な寒波が来ているので、日程を1日遅らせることにした。

27日 昼過ぎ、高山から新穂高へ向かう道中から雪が降っている。のんびりと雪の舞う荒神の湯に入り、時間をつぶす。新穂高の駐車場の車中でスーパー惣菜の夕食を食べていると、激しい吹雪となってくる。フロントガラスは雪で覆われ、風で車が揺れる。駐車場でこれ、日程を1日ずらして正解。

28日 5:30スキーを担いで出発。今年は雪が少なくとのことであったが、4月に入ってから降雪でかなり多い。穴毛谷出合辺りから林道は雪で覆われ、スキーでシール歩行。わざわざ平小屋前に3張、秩父沢のデブリを超えて大ノマ乗越への途中に1張、テントがある。昨日吹雪の中行動して、ここまででストップ。今日は鏡平を往復し、明日下山するそう。朝は快晴であったが、次第に太陽に量がかり、穂高の上にオーロラのような虹雲が現れる。美しいが不気味。大ノマ乗越への登りはボールの底で太陽に焼かれるように暑い。雪もグサグサで体力を奪われる。16:30大ノマ乗越に到着し、反対側の沢を滑り降りる。最後は、高度を下げないように斜滑降で双六谷に降り立つ。双六谷は、傾斜もゆるく登りやすい。2450m付近の快適な台地でテント泊16:50。夜は満天の星空。

29日 6:00出発し、ちょっと上ると双六小屋。避難小屋に人の気配はない。小屋前の斜面を登り、2650m付近から双六岳北側に斜登行。10:30三俣蓮華岳に到着。黒部源流域の広大さに息を呑む。鷲羽岳の奥に水晶岳が見えるが、今日の行程はその懐の向こう側までと思うと、遙か遠いことを実感。北側の尾根を滑り、途中から広い斜面を三俣山荘へ11:00。できるだけ高度を下げないように斜滑降しながら、黒

部源流2450m付近へ。再びシール登行し、14:00 岩苔乗越。ここから先はスマホの電波が届かないので、家などに現在位置を連絡する。雲が下がってきて周囲の山々は見えないが、幸いこれから下る岩苔小谷方面は視界良好。コルの雪底跡を避けて、少し上がってから滑降スタート。最初は傾斜もあり、先日降った雪がモナカ状となり滑りにくい。高度を下げるに従い、ベト雪となる。スピードが出ないので、直滑降とボーゲンで高度をどんどん下げていく。広い谷をひたすら滑るのも、気持ちが良い。水晶池台地の下で谷は狭まり、雲の平側からのデブリで埋まっている。それを超えると、やっと高天が原。せつくなので、地図上の池を訪ねてみる。ツガの森の中にポツンと美しい池が現れる。夏道はあるのだろうか。チャボンというイワナの気配に、釣り具を置いてきたことを後悔。さらに森を進み、高天が原山荘からもうひと滑りで温泉沢へ到着。北ノ俣岳経由の先客が一人。沢の横の台地にテントを張って、早速入湯。熱すぎるので、スコップで周囲の雪を放り込んで適温にする。底にたまった黄色い湯の華が体に纏わりつく。硫黄の香り。暖まって、極楽ゴクラク。山を3回越えて、やって来たかいがあった。雪を溶かして水を作るのも面倒なので、ちょっと硫黄臭い沢の水を飲用にする。夜には雨が降り出し、憂鬱な気分。

30日 朝からの強い雨で時間を持て余していると、空が明るくなってくる。雨が止んだので、赤牛岳に向けて9:30出発。沢沿いの台地を進むと、広く開けた温泉沢に合流。野生動物の天国か。クマ、カモシカ、ウサギ、キツネなど、いろいろな足跡がいろいろな向きに雪の上に点線を描く。そこにスキーの2本の直線とその横のストックをついた点々。何だか面白い。左股を2400m付近まで登ると稜線がすぐそこに見える。しかし、みぞれが降りだし風も出てきたため、11:00赤牛岳は断念。下るとなるとスキーは速い。軽いザックを背に、程よく緩んだ雪を快適に滑降。素晴らしい。テントに11:30。沈殿し、温泉三昧も考えたが、天気予報では雨の後にまた寒気が入ること。先日のような吹雪だと脱出できなくなるので、今日の間に行けるところまで戻ることにする。12:00発、雨に濡れたテントが重い。高天が原では、昨日のトレースを辿らず、地図の湿原マークを訪ねてみ

る。森から雪原を辿ると、湿原が開けた。ぐらりと大回りをして、小川のスノーブリッジを渡る。やがて、昨日のトレースに合流して、岩苔小谷に着く。自分のトレースを辿りながら、ひたすら登り。時々、雨が降るが、昨日はひたすら下っていたのに比べると、広大な景色を見ながら気分は上々。岩苔乗越に17:00着。黒部源流を滑って、2450m付近のダケカンパの横でテント泊17:20。テントに入ると、激しく雨が降りだした。

5月1日 みぞれが降っているが、6:00出発。三俣山荘へ登りあげると、ガスに包まれた。スマホのGPSで何度も現在位置を確認しながら進み、最後はアイゼンに履き替えて、三俣蓮華岳へ8:30着。結構雨が降り出して、滲みってくる。ホワイアウトで、双六岳のショートカット地点がよくわからない。頼りのスマホGPSがなぜか使えない(後でわかったのは、胸ポケット内で誤作動を起こし、画面が真っ暗になっていただけであった)。少し進んでは、真っ白な斜面にとらめっこを繰り返し、何とかリートを導き出すことができた。登りで見た記憶のあるハイマツ地帯を見つけて、一安心。サッと滑って、双六避難小屋へ11:00。誰も居ないが、雨がしのげるだけでも天国。行動食を食べて、一心地。外は結構雨が降っているが、下山決行。双六谷を直滑降で滑り、大ノマ乗越へ登り返し。雪崩に合わないよう谷筋を避けて樹林帯の中をジグザグに登っていく。大ノマ乗越に13:00到着。ここからの斜面は、意外と滑りやすい雪質で、大回りでどんどん下る。最後はデブリ地帯を超えて、安全地帯の林道へ到着。棒立ち直滑降やストックでこいで、穴毛谷出合付近までスキーで下ることができた。もうひと踏ん張り歩いて、新穂高登山指導所に16:00到着。下山届を提出するが、用紙は平成のままだった。荷物を置いて車を取りに行き、びしょ濡れの荷物や服をルーフボックスに放り込む。温泉代をケチって、再び荒神の湯へ。汗を流していると、ひどい日焼けに好奇の目が集中。ひるがのSAで仮眠し、0時頃から車を走らせると、渋滞に全く合わずに早朝には家に帰ることができた。長期のゆったりとした計画を立てた分、重荷に喘ぎ、めったに行けない奥地へと思った割には天候不順での脱出プレッシャーに翻弄された山行となりました。でも、スキーを最大限

道具として使いこなし、訪れることができた高天が原は、野趣あふれる素晴らしいところでした。ア～、オモシロカッタ！

(山嶽寮74号に寄稿があるため写真は割愛しました)

越田和男

「スキー三昧」といっても色々あるな、と楽しんで読ませてもらいました。たいていの人は「スキー三昧」といえば、リフトで運ばれ、圧雪されたグレンデを滑りまくる、というのが当たり前だと思うのだが、独りで残雪期の北ア最深部の雲の平、高天ヶ原などを目指して、シールを着けたり、アイゼンを着けたり、悪天候の中の雪中幕営、雪中露天風呂など、TVのタレント・リポーターが見れば「すごい」を百回くらい連発することになるのでしょうか。連休前半は、あちこちで単独行の遭難事故があり、心配もしましたが、山本君は別格だな、スゴイのひとことでした。帰路の運転での睡魔が気になるころ。気をつけて。小生は桜の済んだ近辺の丘を杖を頼りに歩いています。連休終われば雪山の望める温泉宿にでも行く積りです。

山本恵昭

越田様

「すごい」楽しかったです。ただ最近、なかなか山の女神がほほ笑んでくれず、狙った山頂にたどり着けないことが多いです。今回も、赤牛岳は途中まで、水晶岳については向かうこともできませんでした。日頃から、自分の頭の中の行動イメージと低下していく実力のギャップを埋める努力をしているつもりですが、なかなか難しいです。そんな自分との対話も、また楽し、です。今回の山行で、自然から示された課題は、スマホ依存ですかね。数年前までは、携帯電話も持っていなかったのに、スマートフォンを使うようになって、その便利さにいつの間にかどっぷりつかっている自分に気付かされました。ラインなどいつでも知人と連絡が取れる。リアルタイムで天気予報を調べられる。GPSアプリを使えば、どんなに天気が悪かろうが夜であろうが地図上の現在位置と方向が分かる。日頃のちょっとした山行では、

それが当たり前の感覚になっていました。今回奥に入ると電波が届かないのは想定内でしたが、なんとなく今までにない不安感が頭の隅っこに居候をしていました。そして、GPSアプリは電波が無くても使える優れもので、大きな信頼感を持っていました。でも、ホワイトアウトの双六岳で、スマホの誤作動のために使えなくなった時には一瞬焦りました。結局、じっくり時間をかけて自然を読むことで、進むべきコースを導き出すことができましたが、やっぱり機械頼り道具頼りではなく、しっかりと自分と向き合い、自然と対話することが大切ですね。そんな原点に戻って思考できたことが収穫でした。

訃報・平井吉夫君 越田和男 5月25日

かねてより闘病中の平井吉夫君(新高昭和32年卒)が昨夜亡くなりました。享年80歳。もう病院には行かない、自宅で酒でも飲みたいというので、JACの仲間と先月見舞ったのが最後となってしまいました。愉快に飲みかつ語らい、とても元気そうだったので、訃報に驚いた次第です。小生とは60数年来の盟友でした。冥福を祈りつつ葬儀の予定をご連絡申し上げます。(部分)

(皆様からのコメントは追悼ページに)

岩籠山口無谷 沢登り 山本恵昭 6月4日

6月1日

大森さんと久しぶりの山行き。若狭の岩籠山口無谷へ沢登りに行ってきました。何と言っても、アプローチが楽。舞鶴自動車道敦賀南スマートインターを降りてちょっと行くと、もう沢の取り付き。林道わきに車を止めて、入溪。初めの方に大きめの滝が4つほど。中盤からは小滝やナメ滝が連続し、二俣からは左股を詰めて、最後は藪漕ぎなしに登山道に合流。岩籠山山頂からは、北に日本海、南東に琵琶湖と展望良し。下山は、左股に登山靴のまま、獣道をつないで二俣へ戻る。そこからは林道を下って、駐車場所へ戻ることができた。かなり上流まで、ヤマメの泳ぐ姿が。また、なかなか会うことに無いヤマドリに何度も遭遇。幼鳥を6羽連れた親鳥も。高巻き、泳ぎ、シャワークライム、ナメ滝と、沢登りの全科目揃ったなかなか良い谷でした。



乗鞍と剣 飯田 進 6月 5日

平湯の旅館、森井で一杯やって、富山経由で旅してきました。前日訪れた、乗鞍岳、伊折橋からの剣。天気晴朗なれど霞深し。デカさんの碑、健在でした。



上高地 川村静治 6月 5日

森井集会后、国分さんと上高地を歩いてきました。梓川沿いに穂高がきれいに見えました。小梨平あたり、ズミの白い花盛りです。明神まで左岸を上り明神橋を渡って明神池を見て帰りは右岸を岳沢出合いまで木道主体の道を河童橋まで戻りました。



美ヶ原 川村静治 6月 5日

上高地の後、松本城など見て浅間温泉泊り。翌日は、山本小屋まで車で行き、美ヶ原を散策。北は槍から穂高、南は蓼科山から八ヶ岳あたりまで見えていました。松本に引き返して野麦路でそばを食べて帰ってきました。



奥飛騨集會 越田和男 6月 5日

新平湯でのジジイの遠足の行き帰り、それぞれ残雪と新緑の山景色を楽しんだとの便り、何よりでした。



奥飛騨新平湯 2019.6.3.

奥飛騨集会 上高地 廣瀬健三 6月6日

写真を眺めると、山が呼んでる 気がします。平井仙吉関連の写真を整理すると、中学二年の時の涸沢入りの時の写真が出て来ました。塩田エントは地下足袋、小生はバスケットシューズ、いい加減な恰好です。甲南中学一年生の遠足：乗鞍登山：の時は安物の運動靴、雪溪で冷たかったです。肩の小屋も寒かった。越田コシ 牧野ドングリも写ってますが皆山岳部とは無縁でした。乗鞍下山後、上高地に入り、焼岳に上りました。

小川さん 偲ぶ会 大森雅宏 6月16日

6月15日 小川守正さんを偲ぶ会に出かけてきました。宗教色なしで、関係のみなさんの弔辞や寄せる言葉。大学の震災再建のこと、病院の経営立て直しのこと、松下での思い出、平生さんの研究のこと、など。山岳部関係は武田さんがスピーチされました。各時代の映像紹介でも、山関係はひとつのコーナーで取り上げておいででした。山頂でのあのパンザイスタイルがたぐさん。さすがにお酒の席のシャツイチ姿はなし。添付の写真は、会場の様子です。人物大はお孫さん、小は曾孫君。



ずっと以前、山岳部の創部80年の記念講演。ご記憶の方もおいでかと思います。その中で「いくつも送られてくるOB会誌の中で山嶽寮は格別、手に取ったらまず全部読みますね」のご発言。わたし、当時編集担当していましたから特に記憶にあるのかもしれませんが、それでも、小川さん今日は山岳会の行事やからとくに上手に言っておいでやわ、と思っておりました。懇親会でお話した、人物大のお孫さん、「おじいちゃん山嶽寮は施設に入っても

ずっと読んでましたよ。なんか気に入ったところはこの子(人物小の曾孫君)に読み聞かせてましたもの」。曾孫君、ご迷惑様。でも関係者としては少しうれしい話題でした。

小川守正氏の墓碑 福田信三 6月18日

小川守正氏の墓参をしました。6月初めに長女の河原崎裕子さんよりお電話をいただき墓碑の場所をうかがいましたので、お墓参りをしてきました。お墓は神戸市灘区の祥龍寺の墓地にあります。墓碑には「禅定 法総に満ちて過去未来 未知」と刻まれていました。墓碑というより句碑だと思います。裏面には戒名「碧雲院小岳禅定居士」とありました。お嬢様のお話では戒名に含まれる「岳」の文字は山に因んだものとのこと。写真の句碑左の墓碑はご両親のものと思われます。

祥龍寺HP <http://shoryuji.d.dooco.jp/>

偶然、今日、6月18日は私の家内の命日(1998/6/18)で墓地は祥龍寺の北へ5分の長峰霊園にあります。六甲教会の共同墓地の墓碑に家内と連名で刻み、いわゆる納骨予約をしています。



中井久夫先生のお言葉 越田和男 6月22日

昨日の朝日の朝刊のコラム「折々のことば」鷲田清一より。

《日本では有名な人はたいしたことがない。無名の人が偉いのだ。》中井久夫

富士山

山本恵昭 6月26日

梅雨入りが遅れて変な天候ですが、雨の合間を縫って富士山に登ってきました。6月22日富士宮五合目登山口7:30発。登るにつれて霧雨が小雨に変わり、八合目に着く頃には本降りに。10:30避難小屋に入って雨宿り。先客は、山頂を諦めた地元富士市のおばさん。お湯を沸かしてコーヒーを淹れ、四方山話で盛り上がる。そのうち、次々と雨宿り客が訪れ、狭い小屋は立ったままの超満員。ウクライナとロシアのカップル、小学生の子供連れ夫婦、日本語ペラペラのスウェーデン人、大阪のおばちゃん。皆びしょ濡れであるが、いろんなおやつの交換会、ウクライナ語講習会となる。知らぬ同士が和気あいあいと良いものである。やがて、皆次々と下山していき、一人残され時間を持て余す。外は激しい雨となり、登る気持ちが失せてくる。14:30明るくなってきた気配に外を覗くと雨が小止みに。気を取り直して泊り荷物をデポし、山頂を目指す。16:15山頂、視界10m。夏にインドへ行くという人がテント泊をしている。八合目避難小屋へ戻る途中、九合目でテント泊のお姉さんたちに、ちょうど出来上がったキムチ鍋を頂く。ビール、ワイン、おつまみと次々と勧められ、ほろ酔い気分。どうせならもっと若い頃にモテたかったなあ。17:45避難小屋へ戻って、インスタントラーメンの質素な夕食。6月23日夜半目覚めると、星は見えないが麓の夜景が見える。今日は好天気かと、2:45ヘッドランプを点けて再び山頂を目指す。最後の雪渓はカチコチに凍っていて、アイゼンを付ける。5:00二度目の山頂。御鉢めぐりが見えると思っていたら、あっという間にガスに包まれてしまう。下山を始めると、また雨。九合目でちょうど起きだしたお姉さんたちに昨日の礼を言うと、再び朝食を勧められるが、さすがに丁重にお断りをする。八合目でデポ荷物を回収してひたすら下り、7:40富士宮登山口に下山。最近、あまり人と出会わない山にばかり行っていたので、富士山ではいろんな人との出会いがあって楽しい山行となりました。



シャモニ 山本恵昭 8月4日

シャモニに来ています。今日山に入って見ましたが、クレバスが開いていて途中断念。午後からは妻とハイキング。

ツェルマット 山本恵昭 8月8日

シャモニでハイキング三昧。その後、ツェルマットに来ています。今日は雨だったので、町歩き。そして、ワイン三昧。明日は晴れる予報なので、またハイキングを楽しみたいと思います。

ツェルマット 山本恵昭 8月9日

登山鉄道とゴンドラをフル活用して、ハイキング三昧。マッターホルンが角度を変えて楽しませてくれました。毎日ワイン！

ブライトホルン 山本恵昭 8月9日

昨日のハイキングのときに、登れそうな山を見つけました。そして、今日朝一番のゴンドラで上がり、登ってきました。ブライトホルン4164m、人気の山のようで、沢山の人が登ってきました。雪というより氷なので、緊張しました。

(本号に寄稿するため写真は割愛しました)

越田和男

いい山に登りましたね。小生自身がゴルナーグラートから眺めた限りでは、他の峰々に圧倒されて、あまり印象深くなかったのですが、貴兄の投稿を見て、昔、田口二郎さんが書いた紀行文を読み返してみました。かつて深田久弥が絶賛した名文「回想のヤング尾根」(『山岳』45巻 1950年)で、1942年7月の登攀記録を中心に、当時のツェルマットの雰囲気や、ガイド連中との交遊の在り様

の描写に興味深いです。独りで訪れたツェルマツで、たまたま出くわした旧知の老ガイドに勧められて、地元のガイド2名にリードされての登攀ですが、結構ヤバかったみたいで、恐怖感の描写も田口さんらしい筆致です。この文章は田口さんの遺稿集『山の生涯・上巻』（茗溪堂 1999年）にも収録されてますので、帰国後のお暇なときにどうぞ。

山本恵昭

「回想のヤング尾根」、あいにく資料を持ち合わせておりません。1942年当時だったら、今のようなゴンドラもなく装備も重く、大変なチャレンジだったんでしょうね。今回買ってきた「4000m Peaks of the Alps」という本によると、ブライトホルンはグレードFで、アルプスの4000m峰の中では the easiest route と書いてありました。ロープウェイ終点から、ハイペースで登って1時間半で山頂、下り1時間。下手に転ぶと1000mほど墜落となりますが、基本歩きのみ。今度、テレビ番組で土屋太鳳が登るそうです。私が最初に行こうとして断念したモンブラン・ドゥ・タキユールは、グレードPDとあり、例年だとそれほど難しい山ではないようです。今年は異常高温で、セラックの動きが早くクレバスがどんどん開き、日本人ガイドからもやめた方が良いでしょうと言われていました。ここから、モンブラン三山ルートでモンブランに登れたらと思ったのですが、甘かったですね。モンブランは、今年から登山規制が厳しくなり、ノーマルルートでの個人テント泊は禁止だそうです。テトルース小屋とグーテ小屋がありますが、ネット予約はいつ見ても一杯。日程に余裕をもってシャモニに来て、天気の良い日に直接小屋に電話をして、空きを確認するのが裏技のようです。もちろん、自分では電話できないので、インフォメーションの日本人案内係の方をお願いすることになります。

帰国しています 山本恵昭 8月20日

10日、モンブランへのラストチャンスを狙って、再びシャモニに移動。残念ながら、天気が崩れる周期となり、モンブランは諦めました。スーパーで牛肉とワインを買ってキャンプ場で結婚記念日。

11日、半日の晴れ間を使って、フランスとスイス国境のバルム峠へ。峠の小屋で、放牧牛のカランロンというカウベルを聞きながら、シャモニビールをゴクリ。広々草原が気持ちよかったです。

暑い中うだうだ下っていると、マウンテンバイクが専用コースを激下りでしばし見とれる。電車やバスにも、自転車積むスペースがあるくらい流行っている様子。

12日は雨模様だったので、レズーシュの村巡り。手作りチーズや生ハムの試食販売。煮込みソーセージを買ったら、店のおばさんがフランス語で一杯しゃべりかけてくる。他のお客が英語に訳して説明してくれたことによると、「親戚が日本人の嫁をもらって東京に住んでいる。嫁の名前は〇〇で……。あと不明」試食とおしゃべりで満腹。公園の池にニジマスが一杯。手づかみできそうでしたが、控えめました。ベンチでフランスパンを食べていると、自転車ツーリングの青年が近寄ってくる。イギリスから船でスペインに渡り、1週間かけてシャモニまで来たそう。ナッツをあげるとおいしそうに食べていた。ツェルマツのキャンプ場でも、ポーランドから来たという二人づれ、結構年配のソロツーリストと、結構自転車・キャンプで旅行している人も多い。結局、傘をさしてセルボースという隣村までハイキング。

13日は、レズーシュ駅から、シャトルバスでメルレットの動物園へ。敷地内に色々なシカ類を放し飼いにしているだけだが、意外と人気で駐車場も人も一杯。正面にモンブランが聳えて展望もよい。帰りは駅までハイキング。

14日バスでジュネーブに移動し、エミレーツ航空でドバイへ。15日ドバイからの関空便は、台風のため遅らせて翌日に飛ぶとのこと。いろいろな係員に尋ねながら空港内を右往左往して、翌日の搭乗券と今日のホテルを航空会社もちで確保。オイルマネーのおかげで、ドバイの2時間観光と昼寝、そしてバイキング3食を楽しんで、16日帰国しました。世界のアウトドアスポーツの中心地シャモニ。なかなか刺激的でした。

摩耶山

山本恵昭 9月1日

朝起きて思いつきハイキング。修法が原まで車で行って、摩耶山にダッシュ。ハイスピードで登ったけど息があがらなかったのは、アルプス効果でしょうか。山頂東屋でラーメンとコーヒー。隣のおばちゃんたちは焼き肉、別のおばちゃんたちはかき氷、タピオカミルク。キャピキャピと楽しそうでした。トゥエンティクロスに何故か河童橋。大正池の雰囲気にてなくもないかな。修法が原に戻るとボサノバミニコンサート。しばしゆったり。

焚き火キャンプ 山本恵昭 9月8日

大森さんと摩耶山トゥエンティクロスの途中でキャンプ。7日夕方、あまりの暑さに新神戸からハーブ園までゴンドラ利用。歩く前からハーブ園でビール。薪を集めて、盛大に焚き火と串焼き焼き肉。炎を見ているだけで、心があらわれるよう！

8日朝、下山していると職場のメンバーに遭遇。合流して高雄山経由で修法が原へ。なかなか楽しい2日間でした。



うらやましいなあ 福田信三

お二方、いい休日ですねえ。うらやましいというのが、最近パツと思いついてパツと行動できない、結局ジムで適当に汗を流して風呂に入ってビールとなってしまう。ヤッパ歳と実感。6日 免許更新しました。あとから思えばさほど難しくはなかったけど、やるまでは結構不安でした。これも歳。と言う事でろくなことの無い今日この頃に山本さんの一報はごち良しです。どんどん発信してください。

黒部 薬師沢左俣 山本恵昭 9月17日

残暑厳しい9月は沢登り。黒部の薬師沢左俣で、イワナと遊んできました。

9月13日職場メンバーとの焼き肉宴会、忍の一字でアルコールを我慢。帰宅後、急いで車に荷物を積み込み、12時前に出発。

14日仮眠を取りながら、9:30に折立に到着。準備を整え9:50に出発。夏に2週間ほぼ毎日アルプスを歩いた積立筋肉貯金が効いていて、快調なペースで太郎平小屋に13:00着。小屋前は、結構な賑わい。薬師沢へ下る木道を辿り、14:00左俣の河原で沢装束に。平凡な沢床をジャブジャブと遡り、14:50標高2080m付近の河原を整地して今宵の宿とする。武田さんに頂いた毛ばりで、イワナと戯れる。ビバーク地点の前で1尾、少し下流に下ってもう1尾を食用にキープ。あとは、毛ばり釣り練習。白系より黒系が良いみたい。流木を集めて焚火でイワナの塩焼き、持ってきた豚バラジャーキーを石の上において炙り焼。残念ながら今回はアルコールを持ってきていないが、ゆらゆら揺れる炎を見ながら、ぼーっとする贅沢。ウトウトしていると、いつの間にか満月が辺りを明るく照らしている。次に目覚めたときには、月は消え満天の星空。流れ星かと思ったら、いつまでも消えず、ハイスピードで星の間をすり抜けてゆく。人工衛星だろうか。

15日意外と夜は寒くて、明るくなってもすぐには体が動かない。6:50ベトナム料理のフォーを食べて体を温め、出発。次々と現れる滝は、それぞれ個性があって面白い。直登したり巻き回ったりして超えてゆく。流れの穏やかな滝壺横では、産卵のための縄張り確保したイワナが悠然と泳いでいる。もうこの源流部で釣りをする気にはなれず、捕まえたアブやバッタを岩の上から放り込んで、それをパクリと食べるのを見て楽しむ。

やがて傾斜が落ちると、二俣に到着9:00。当然、赤木平へ向かう左へ。以前大森さんと山スキーで訪れた赤木平は広々とした気持ちの良い草原であった。最源流部の浅い流れの中に5cmほどのイワナの幼魚を発見。その生命力に驚く。

最後に水の枯れたガレ場を詰めてゆけど、振り返るとこの5月に麓をスキーで駆け抜けた黒部源流の山々がドーンと聳えているではないか。三俣蓮

華岳、鷲羽岳、水晶岳、ひときわ赤い赤牛岳。けっしてカメラでは収まり切れない景色を、目に焼き付ける。ガレ場と笹原をつないで、赤木岳と北ノ俣岳のコル近くの登山道に合流11:00。快晴の太陽に焼かれながら、北ノ俣岳を超えて緊張感の抜けた長い道のりを太郎平小屋まで12:50。ラーメンやビールを注文する登山者を横目に、ボロボロになった行動食をほおぼる。沢で拾った流木をストックの代わりにしてひたすら下ると、15:40折立に無事下山。

今回も、いろいろな楽しみが一杯詰まった充実の山登りでした。



山嶽寮 山本恵昭 10月16日

山嶽寮が届き、秋の夜長のお供に読ませていただきました。小川先輩の前穂北尾根登攀の記録が圧巻です。1947年に積雪期の北尾根に挑戦。今とは装備も食料も雲泥の差だったと思います。ご存命の間にもっとお話を伺える機会を持っていればと、後悔しています。泉さん(納富さんの方がなじみ深いですが)の投稿、藪内さんを知る人の思いを代弁していただいているように感じました。なぜ藪内さんは山で死ぬ結果になったのか、何が彼を死まで追いつめていたのか。今となっては、分からないような分かるような。ただ、一緒に山に行けないこと、一緒に酒を飲めないことが残念です。やっぱり、山嶽寮、良いですね。編集発行に関わっていただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

天声人語に母校記事 越田和男 10月17日

今朝の朝日の「天声人語」に、今回の台風19号に因んで、1938年(小生の誕生年)の阪神大水害一甲南関係の被災記録一谷崎潤一郎一細雪一母校創始者・平生鈇三郎の名言「常二備エヨ」と引いています。甲南のような一地方の小さな学園に纏わることが、このような形で記事にされているのは悪い気がしません。どうかご一読を。



福田信三

越田様

その台風は昭和13年で中高の母校、六甲学院の創立の年でした。4月開校、半年後に校舎は泥に呑み込まれましたが、生徒や両親たちの努力で再開できたとのこと。その時の残骸、でかい岩は校舎の正面に鎮座、校長の教訓が刻まれています。

川村静治

昭和13年7月5日の阪神大水害で、甲南小学校の児童4名と付添い1名が学校で犠牲となりました。当時の様子は甲南小学校水災記念誌に堤校長の手記と児童の作文で残されています。

常二備へヨ を刻んだ石碑が甲南小学校の校庭にあります。リンク先の記事をご参照ください。

<http://konan-es.com/past/SONAEYO/suisai.htm>

甲南山岳会 秋の集会 渋谷一正 10月21日

10月19日(土)～20日(日)

長野県木曽郡日義村木曽駒高原

木曽文化公園内宿泊施設「駒王」

参加者 越田和男、二谷和成、飯田進、武田雄三、安井正、伊丹徳行、柏敏明、國分廣昭、石原浩二、山本真博、井上知三、松下哲夫、松山弘和、米山悦朗、川村静治、渋谷一正 以上17名

19日(土) 雨模様、1F 食堂にてビールを楽しむ。いつも通りのスタイル。

夜は5時30分より2F で宴会、今回参加者の長老
米山さんの乾杯でスタート。深夜まで歓談。

20日(日)7時より食事、8時には集合写真、山の
歌を歌い、解散。



有難うございました 柏 敏明 10月22日

駒王の秋の集会。楽しいひと時を過ごさせて頂き
ました。翌日、越田さん、安井さん、浪川さんの4
人で、米山さんに教えて頂いた王滝村の自然湖
へ行って来ました。小さな大正池といった感じで、
素晴らしい所でした。是非、お勧めです。その後、
雨宮別荘で、皆でラグビーを応援するも残念な
結果でした。お世話になりました皆様、有難うご
ざいました。



群馬の山旅 山本恵昭 10月27日

台風でズバズタの国道を迂回しながら、まずは婦
恋の娘宅へ。

10月19日娘の車で万座高原。娘は遊歩道の点検、
私はお気に入りの豊国館。良い湯です。

20日谷川岳馬蹄形コースへ。ロープウェイで楽ち
んと思っていたら、案外アップダウンあり。オマケ
に晴れ予報なのに、雨。展望コースなのに、視界
50mの白い世界。岩場は蛇紋岩で良く滑る。泥濘
だらけで、平らだったらもう一つ尾瀬沼が出来そ
う。ガスの切れ間に、草紅葉や紅葉が美しい。清
水峠泊。

21日朝日岳の登り途中から新潟県側は晴れ、で
も群馬県側は雨。笠ヶ岳の避難小屋で会った地
元の方の話だと、この辺りからの谷川岳が絶景
とのこと。残念！松の木沢の頭まで標高を下げ
ると、視界が開け、なんとか一の倉沢の岩壁が見
えた。下山後、宝川温泉へ。湯浴み着を着て、混浴
露天風呂。なかなか風情があるけど、日帰り2000
円はちょっと高い。夜、雨の高速道路。台風で不
通区間は地道。恵那山トンネル出たところで、事
故のために通行止め。1時間ほど待って、やっと
開通。22日、早朝に帰宅のつもりが、昼に。雨に
祟られた山旅となりました。



福田信三

万座温泉、懐かしい温泉、東京にいたころ何度
となくスキーに行きましたが、いつも会社の連
中四五十人との団体でワイワイ、旅館名は覚え
ていませんが、この豊国館、いいですねえ。特
に露天風呂、更に宿泊料金。この冬は是非行っ

てみます。いい所を教えてくださいありがとうございます。
最後の、山本さんの行動力はすごいねー、感心を超えました。

山本恵昭

豊国館は、数年前の夏に妻と志賀高原の赤石山に登った後、日帰り入浴500円につられて訪れました。一度入るとその雰囲気が入ってしまい、その日は車中泊の予定でしたが急に宿泊したいとお願いしました。夕方でしたので、「もう食事は出せないけど、素泊まりならいいよ」との返事。さらに、「自炊湯治ならもっと安くできるよ」と。何が違うのか分かりませんが、安いにこしたことはない。寝具や浴衣のサービスが違うのかも。近くにスーパーとかはなく、手持ちのカップラーメンと受付で買った大根の漬物、そしてビールで過ごしました。自炊場で会った人の話では、1週間分の食料を買い込んで毎年3回ほど来ているそう。調理器具も冷蔵庫もあって、不自由はないとのことでした。夜は大雨でしたが、備え付けの傘をさして露天風呂へ。早朝からチェックアウト前まで数回入浴。お湯は、白濁した酸性で、近くの草津温泉とはまた一味違った感じです。周囲が観光地化していく中で、湯治場の雰囲気を残した良いお宿です。ぜひ訪れてみてください。スキー場はあんまり広くはないですが、コースに変化があり、何と言っても標高が高いので雪質が良く楽しめます。ただし、その分、天気が崩れると寒さが厳しいので、そんなときは温泉に。

越田和男

私も、数十年前ですが、何回か露天風呂を楽しんだ経験あり。好印象が残ってます。まさか当時のままということはないでしょうが、雰囲気は残っているのでしょうか。再訪したいです。会社のスキーバスで行ったのですが、スキーを午前中に切り上げて、帰りのバスの時間までを露天風呂とビールで過ごしました。

福田信三

越田さん、最近温泉に限らずすべてがどんどん変わってしまって昔を懐かしむことが難しい時代です。越田さんの文面で、ふと酸ヶ湯温泉を思い出してネットで確認しました。最初は高校2年の時に同級生と行き、千人風呂で男女混浴を初体験し、笑い話満載です。現在も混浴とのことで次記のブログが面白いです。「酸ヶ湯温泉の「千人風呂」は青森県屈指の名湯で、男女混浴なのが特徴です。お湯が白濁色なので、入ってしまえば見えないですが、中の構造上どうしても男性の視線を感じてしまうので、女性はなかなか落ち着いて入浴できません。また、入浴時に着用できる湯あみもありますが、「購入のみ」でかつ安価ではないため、利用しづらいです。」

石鎚山

山本恵昭 11月 4日

まだ行ったことのなかった石鎚山・瓶ヶ森へ、妻と行ってきました。

11月2日 ロープウェイで上がって、成就社へ。法螺貝の大会・検定があるとのことで、あっちこちで法螺の音が聞こえてくる。いったん下って、急な登り。試しの鎖場というところを登ってみるが、団体さんで大渋滞。次から鎖場はパスして一般道に行く。階段を上り詰めると、人だらけの弥山山頂。岩稜伝いに天狗岳へ。危なっかしいハイカーさんも次々とやってくる。快晴、絶景。二の鎖小屋へ戻って、天狗岳北壁を仰ぎながら土小屋へのトラバース道。土小屋からは、車が次々通る車道を下に見て、登山道を進む。結構立派なブナ林が続く。やっとのことで、しらせ峠へ到着。山荘でビールのつもりが、建て替え工事中でアウト。ビールどころか、キャンプ場も水場もない。工事の人をお願いして、プレハブ工事事務所の横にテントを張らしてもらい、工事に引いた水を煮沸して飲用に。

3日 あまり人が通っていない笹原の道を朝露に濡れながら進む。瓶ヶ森登山口からはよく整備された道。瓶ヶ森の西側、氷見二千石原は広々した笹原で気持ちが良い。ここの避難小屋は最近できらしく、中に入るとヒノキの香りが漂う。水を引いた炊事場もトイレもある。瓶ヶ森は神秘的。そこ

からしばらく行くと、ルンゼ状の谷をロープや梯子に助けられながら激下り。所々崩れていて、なかなか厳しい。周囲の森は多様な樹々で美しい。最後、林道に出ると緊張感が抜けてへろへろ。暑い、足痛い、ビール飲みたい、この石ころめ、クソッ、などという雑念をかき消しながら悟りの境地で足を前に出す。やっとのことで、ロープウェイ下駐車場に到着。とりあえず、そこのお土産屋・旅館京屋の石鎚温泉に。駐車場でボロ儲けしているからなのか、店の人はやる気なし。でも温泉は、白濁したアルカリで肌ツルツル。15℃くらいの冷泉をあためているらしいが、良いお湯でした。西条市のスーパーで惣菜と伊予のお酒「梅錦」を買って、松山自動車道のパーキングエリアで車中宴会、車中泊。早朝、酔いもさめて道が混まないうちに帰宅。

この辺り、山上は平原状でも谷は急峻。皆さん下から歩いて登るよりは、ドライブウェイを使って車で登山口まで来て、サッと日帰り登山される方が多いようです。それなら、もっと歳を取ってからでも来れるかも。ちなみに、カロラのテレビCMで菅田将暉と中条あやみが歌いながらドライブしていたのが、この辺りのUFOラインと呼ばれるところだそうです。



山嶽寮 越田和男 11月24日

先日、とある山関係の集まりで、神戸大学山岳会副会長の大竹口誠治さんという方にお会いする機会があった。彼のカバンから昨年の「山嶽寮」が出てきて、神戸大の会報の参考になりますとのこと。拙稿を含む我々の内輪の刷り物も、結構読まれているのに、恥ずかし嬉しかったです。

カニキノコ会 山本恵昭 11月25日

カニキノコ会にご参加の皆様、お疲れさまでした。塩崎さん、別荘を使わせていただきありがとうございます御座いました。暖かくて快適でした。

朝に登った烏ヶ山は、なかなか良い山でした。岩場でスリルを味わい、快晴の山頂は絶景。宇多田ヒカルの奥大山天然水のCMロケ地です。今年のカニは何だか高くて買う気がせず。安井さんが持ってきてくださったスジ煮込みをあてに、飲みながらスタート。安かったホウボウの半身を霜皮造りに、残りはタラと塩崎邸栽培ナメコ、事前に採り貯めたキノコとともに、鍋に。マイタケ、ナラタケ、ヒラタケ、ブナシメジ、ムキタケ、ナメコと、ブナ林キノコのオールスターズ。でも、それに気づいた方はいたでしょうか？マイタケの天麩羅、リクエストでナメコおろし。塩崎さんが買ってきてくださったアオリイカは刺身と下足湯引き。後半は、塩崎さんがあらかじめ用意してくださったカニを入れて、何とかカニキノコ鍋に。



カニキノコ宴会 浪川純吉 11月25日

塩崎さん大山別荘で山本シェフ手作りキノコ鍋・キノコ天ぷら・安井さんスジ煮込み・カニキノコ鍋等々久しぶり満腹しました、あんなにキノコが入っているとは知りませんでした、行かなかった皆さん来年は是非参加してください??宴会の写真載せます！



妙号岩

山本恵昭 12月 8日

久しぶりに菊水山の西にある妙号岩に。ロープは持って来ていないので、岩場巡り。一番上から下をのぞくと、なかなかの高度感。お尻がこそばくなりました。中央の岩場には、オオスズメバチの大きな巣がぶら下がっていて危険。石井ダムには鴨が羽を休め、風に吹かれて隊形変化。君影ロックガーデン経由でハイキングしてきました。



塩崎将美

懐かしい、高校時代学校から近かったので麻ザイル持ってよく行きました。私の時代にも蜂はいましたよ。1年後輩が刺されて病院へ連れて行った事がありました。

山本恵昭

暖冬とはいえ、さすがに冬なので1~2匹ほどしか飛んでいませんでした。石でも投げてイタズラしたくなりましたが、巣の中にはわんさと蜂がいると思い、辞めておきました。

大森雅宏

大学のメンバーでは多分行かなかったゲレンデですね。神有の無人駅降りて線路伝いに歩いて、なんかの目印のところから山に入ったような記憶があります。高校生だった弟やその友達に連れて行ってもらいました。「城が越」も近くにあったかと、ネットで見たら菊水山の東側、ちょっと離れてる。ついでに、ハチの思い出。堡塁の中央稜の取り付きから5mか7mくらい登ったところで、刺されたことがありました。すずめばち。首の後ろ。「ちくん」ではなくて「どかん」という感じのショック。クルマに戻ってほうほうのテいで六甲の病院に。顔も体もぼんぼくに腫れてました。あの時一緒にした山本岳兄、その節もお世話になりました。スバルのR2って軽四に乗ってた4年生の頃です。あんな360ccでオトナ二人か三人か、表六甲ドライブウェイよく登ったなと思います。

山本恵昭

堡塁岩蜂事件、私が1年生のときですね。大森さんの顔に、みるみるうちに赤い斑点が現れて顔中に広がり、顔全体が真っ赤になっていったのを、今でも鮮明に覚えています。フラフラの状態で車を運転されて六甲ドライブウェイを下っている間、助手席で生きた心地がしませんでした。六甲道駅前の病院に行ったら、即点滴。車は病院の玄関前に止めたまま。今となっては、笑い話ですが。

平井幹男

僕が山登りをするきっかけとなった蜂事件を思い出したので、ちょっと昔話。60年近く前の小学生の五年生だった頃当時の担任の先生がクラス10名程度を連れてハイキングに箕面の山に連れて行ってくださった時、先頭を歩いていたクラスメートが蜂の巣にぶつかり、巣から飛び出した

蜂に全員が刺され箕面駅近くの病院に駆け込んだ痛い思い出がありました。これに懲りず、ハイキングや山登りに興味を覚え、中学の登山部、高校の山岳部そして甲南大学山岳部へと続くおぞましい歴史が始まりました。

越田和男

道場の百丈岩の左の岩場。小生大学4年でトップ、セカンドの1年生長谷川恵一(オケイ)との間のザイルが揺れて、ハチの巣に当たり、怒った蜂がオケイを襲撃。岩場にへばりついてたオケイの断末魔のような悲鳴を覚えている。引っ張り上げてからの処置をあまり思い出せないのは、大したことにならなかったからか。昭和35年のこと。

妙号岩 岩登り体験 山本恵昭 12月16日

岩登りをしてみたいという知人を連れて、妙号岩に。もちろん、ロープは麻ではなく、ナイロンです。久しぶりの高度感に緊張しました。でも、終了点の展望良く、気分は爽快！



明けましておめでとうございます

平井幹男 2020年 1月 1日

今年は山岳会にとって素晴らしい一年になりますように、又皆様にとっても良い歳になりますように願っています。

白菅山 山本恵昭 1月 6日

雪が少なすぎて、山スキーも雪山登山もお預け。蘇武山～小城林道を利用して、白菅山へ30分ハイク。下りはブナ林徘徊。なかなか趣ある巨木が。ナ

メコとヒラタケのお土産付き。締めくくりは、セコガニと香住鶴冬期限定しぼりたて生酒！



大雪の氷ノ山 山本恵昭 2月11日

大雪の中、知人と神戸大ヒュッテ泊で氷ノ山に行ってきました。

2月8日 氷ノ山国際スキー場から、東尾根経由で神戸大ヒュッテに。何十年かぶりで、本気のラッセル。スノーシューでも腰まで埋まる。根雪なし、笹の下が空洞でズボットとはまる。辿り着いた神戸大ヒュッテは天国。薪ストーブで鍋。隅っこでエイのヒレを焼くと、うまい。

9日 雪は降り続き、昨日のトレースは跡形もない。一応、山頂目指して1時間半、ラッセル三昧。スノーシューが外れて壺足になると胸まで埋まる。1394mを超えた辺りで断念し、小屋へ。登りが地獄なら下りも地獄と覚悟を決めて、出発。1時間ほど下ると、トレースを発見。ラッキー！ どうやら、ここまで登って、引き返した様子。後はドヒャツと下る。駐車場では、昨日から止めていた私の車だけ雪の山。数日前まで積雪5cmくらいだったので、なんちゃって雪山のつもりだったのですが。ビュンビュンの吹雪、めったに味わえないサラサラの深雪でした。



雪見会 山本恵昭 2月15日

今日は、浪川さんと白馬乗鞍岳に登って、滑ってきました。5月のような陽気。暑すぎ。モナカ雪で滑りにくい。夜の宴会、ちょっと寂しいけど、楽しく騒いでいます。



雪見会2日目猫鼻温泉 山本恵昭 2月16日

朝から雨です。雨のゲレンデを滑る気がしないので、以前から気になっていた温泉に来ています。猫鼻温泉、変な名前と適当な建物。隙間風が一杯で露天風呂気分。



飯田進

山本兄、猫鼻とは妙な名前で、何処にあるか探したら、判りました。もと蒲原温泉姫川の川原に一軒だけあった温泉。以前五月の連休に、OBが集まって、宴会したことがあります。その後女将がノイローゼになって、家に火をつけて回り、番頭さんや女中さんが注意してのですが、とうとう火事になり、半分ほど焼けてしまい、けちのついた旅館に止めを刺すように、激流が襲い掛かり消滅したようです。その後しばらくは何もなかったはずですが、露天風呂ができていて、と聞いていました。それが猫鼻温泉だったのですね。ついですが、その上、旧道に樟葉峠というのがあり、その近く、姫川に落ちる断崖の上に、露天風呂が掘ってあり、よく入りに行ったものです。今でもあるかしら。

越田和男

猫鼻温泉に関連して旧蒲原温泉、懐かしいですね。5月の連休に毎年OB数名で泊まってましたね。昭和40年代中頃の数年間のことでした。旧館の鄙びた佇まい、満開の桜、湯量豊富な内風呂と川原の露天風呂が思い出せます。伊藤文三さんも何回か来られたりして。今は亡き大関や美田さんもいました。そこをベースにして、伊藤、美田、赤田、国分、越田のメンバーで、根知集落から雪道を雨飾の北面の梶山新湯(現雨飾温泉?)まで温泉入浴のために往復したこともありました。美田さんがスノーブリッジを踏み抜いて肝を冷やしたり。峠の露天風呂は数年前に探して見たのですが、ありませんでした。そもそも現在は国道がトンネルになって、蒲原側から峠へは行けませんでした。

山本恵昭

色々いづくのある温泉なんですね。10時オープンとのことでしたが、その日は9時半頃に到着。中を覗くと待合室のストーブ横で人が寝ている。従業員と思って声をかけると、泊まり込んでいた常連さんでした。お爺さんが一人でやっているそうだが、今は留守。「その猫の置物に500円入れたら、入っていいと思うよ」ということで、掘っ立

て小屋風の更衣室を経て浴室へ。外は大雨となり、隙間から吹き込んでくる。まるで、露天風呂のよう。外に露天風呂もありましたが、お湯が入っていませんでした。そのうち、家族連れや富山のスキー諦めチームなど結構賑やかに。風呂から上がると、例の常連さんがお茶を入れてくれた。プラス1000円で泊まれるそう。横のコンロには鍋焼きうどん、棚には色々な酒類、クマの毛皮の敷物。ヘンテコな名前と同じくらい、不思議な空間でした。ぜひ一度、お訪ねください。

渋谷一正

私も井上先輩といったことがあります。きれいな桜が外にあり、濡れ縁が印象的で裸電球で卓球をすると継ぎ目で球が大きくそれて楽しい夜を過ごしました。国道から下っていくと建物が見え、入口のあたりのたたずまいを思い出します。

雪見会に参加させていただいて

南井英弘（関学山岳会） 2月20日

初日：大町に近づいた頃から白馬方面は晴れ間が広がり後立山連峰が見事に輝いた。
2日目：好天に恵まれ、輪カンジキを履いて「親の原ゲレンデ」に沿って右側を歩き、小1時間費やし「柵池レストハウス」にやっと到着。・・・これはしんどかった。レストハウスで早目の昼飯を喰って、テラスで一休み。南に向かってトラバースを始め「鐘の鳴る丘」の最北のリフト小屋、そして「鐘の鳴る丘第11ロマンスリフト」終点まで歩いた。白馬三山、不帰の剣、八方尾根、五竜、鹿島槍、爺が岳まで50mも歩けば景色が変わり、写真を撮りながらのんびりウオーキング。また最後のリフト乗り場からそれまで林や前山に隠れていた白馬乗鞍、小蓮華がそして雨飾山も顔を出し歓迎して呉れ、至福のひと時を過ごした。鐘の鳴る丘の「鐘楼」を目指してゲレンデを横切り、鐘を一つ撞いて、トラバース気味に下りたら、丁度「ゴンドラ」乗り場の切符売り場の前に出た。

3日目：塩崎様の車で「白馬八方バスターミナル」まで送っていただき、1時間半待ちの予定が新宿行高速バスにキャンセル有り。直ちに帰途につくことができました。

18年11月、ヒマラヤ・トレッキングから帰宅した日の夜半から頸椎に異常が起こり、1年4か月間ハイキングも慎んでいましたが、皆さんのお蔭で山行に復帰できる見通しがつきました。夕餉の歓談も時を忘れる楽しいもので活力を頂き感謝の至りです。皆々様のご配慮とご厚情に御礼申し上げます。



雨宮宏光先輩を偲ぶ会について

渋谷一正 2月27日

呼びかけ人 南里章二/井上知三/渋谷一正

日時：4月4日 午後3時より5時

場所：甲南学園平生記念館1F ロビー

会費：1,000円

私たち甲南の山仲間の大先輩である雨宮宏光さんが去る1月8日逝去されました。先輩との数多くの思い出を語り遺徳をしのびたいと思っています。多くの仲間の参加をお待ちしています。準備の都合上参加される方はメールで連絡をいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

雨宮宏光先輩を偲ぶ会 の延期について

渋谷一正 3月21日

甲南山岳会会員 各位

呼びかけ人 南里章二/井上知三/渋谷一正

先日、4月4日開催でご案内いたしました「雨宮宏光先輩を偲ぶ会」を延期いたします。コロナウイルスの感染懸念により集会・移動に懸念が示されております。感染の終息まで待ちたいと思っています。開催日時が決まり次第、掲示板により連絡する予定です。よろしくお願い申し上げます。

山岳会総会、慰霊祭について

平井幹男 3月28日

甲南山岳会会員各位

先日ご案内いたしました2020年度山岳会総会・慰霊祭(4月18日19日開催予定)につきまして、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け延期させていただきます。新型コロナウイルス感染が終息し安全性が確認されましたら改めてご案内をさせていただきます。また、山岳会の活動報告等、ホームページなどでお知らせします。

会員の皆様もご自身の健康に留意してご自愛ください。

甲南山岳会会長 平井幹男

目次

塩崎編集長の海外写真日記

ドロミティ

塩崎将美 2019年6月28日

ドロミティとチロルを旅してます。私の旅ですから天気は勿論晴れ、楽しんでます。昨日はグロースグロックナー山岳道路を走りフランツヨーゼフヘーエの展望台からオーストリアの最高峰グロースグロックナー3797mをながめました。三枚目の雪をかぶった山は名前を聞いたが忘れました。



6月28日

旅の4日目にドレーチーメーディラヴァレード山麓を3時間のハイキング、標高2300m程の所なのに暑くて参りました。案内してくれたガイドのお嬢さんは山ではなくビーチにいる様と言っていました。多くのクライマーが登ってるのも見れ大満足。三枚目はホテルのテラスから見えた山、ロープウェイが頂上まで行ってる様でした。



6月29日

ザルツブルクに居ます。昨日はザルツカンマーグートのツヴェルファーホルン 1522m でハイキングしました。綺麗な花々を見ながらあるきました。この他は映画サウンドオブミュージックのロケ地、私達が歩いた所も映画に出て来るそうです。向かいの山も映画の舞台です。





越田和男 6月30日

塩さんの欧州山見遊山、晴天に恵まれ羨ましき限り。ドロミテやチロルは小生にとって懐かしい場所ばかり。「乗り鉄」でも「撮り鉄」でもいいですから、ぜひ鉄道写真もご披露下され。

インスブルック

6月30日

越田様

ツアーですから走ってる汽車は難しいと思い朝五時半頃中央駅へ行ってみました。





越田和男 6月30日

早速の鉄道写真有難う。本線の大きな駅みたいですけど、どこの駅ですか。
ところで、貴兄が先日コルチナの宿から寫していた山はモンテ・クリスタッロ 3154m だと思います。
以前、田村俊介さんらと行った時は、時期が早すぎてロープウェイが動いてませんでした。



7月1日

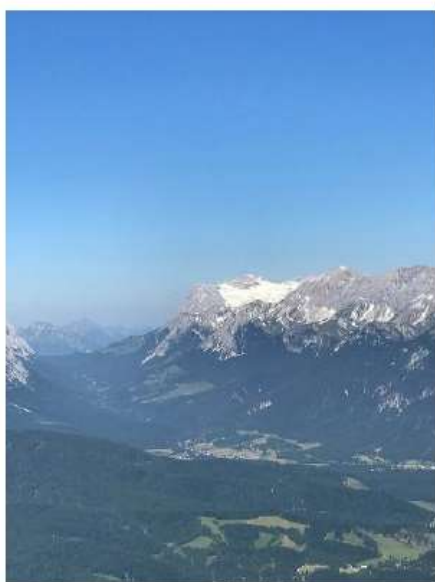
山名教えてもらい有難う御座います。最近では山の名前を聞いても直ぐ忘れてしまい腹が立ちます。それで山名聞いた時は聞き流しはじめから覚える事を諦めています。

チロル

7月1日

今日はゼーヘルダーシュピッツ迄のハイキングに行ってきた。またまた快晴の中ドイツ最高峰シークシュピッツェ山 2962m を眺めながら稜線歩きをしました。
右端のピークが頂上
頂上手前、トレールランのゴールで頂上は混雑してました。





目次

編集後記に代えて

寄稿のお願い

皆さんからの原稿をお待ちしています。
最近の山旅、学生時代のこと、行事に参加して、などジャンルを問いません。
最近山に行っていないからムリ、とお思いの方。
甲南山岳会は若い時に一緒に山に登ったメンバーの仲良しクラブ、と私は思っています。
仲良しクラブの会報です。
山以外の原稿大歓迎です。
来年は貴兄からの原稿をお待ちしています。

山嶽寮 編集長 塩崎将美

原稿宛先
電話/FAX
Eメール

山嶽寮 第75号

甲南山岳会

神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学内

2020年(令和2年)10月

編集人塩崎将美

印刷(株)春日